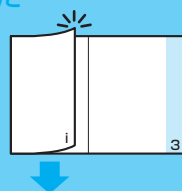
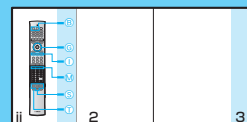
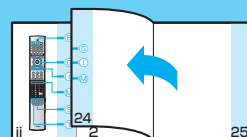
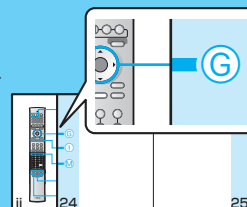
J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-5100 / YSP-4100

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前に取扱説明書と簡易接続・操作ガイド、保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ

1 本機を設置・接続します。

「設置する」（15 ページ）、「接続する」（18 ページ）

2 自動設定（インテリビーム）で、本機を使うための設定をします。

「自動設定する（インテリビーム）」（23 ページ）

3 ソースを再生します。

「再生のしかた」（30 ページ）

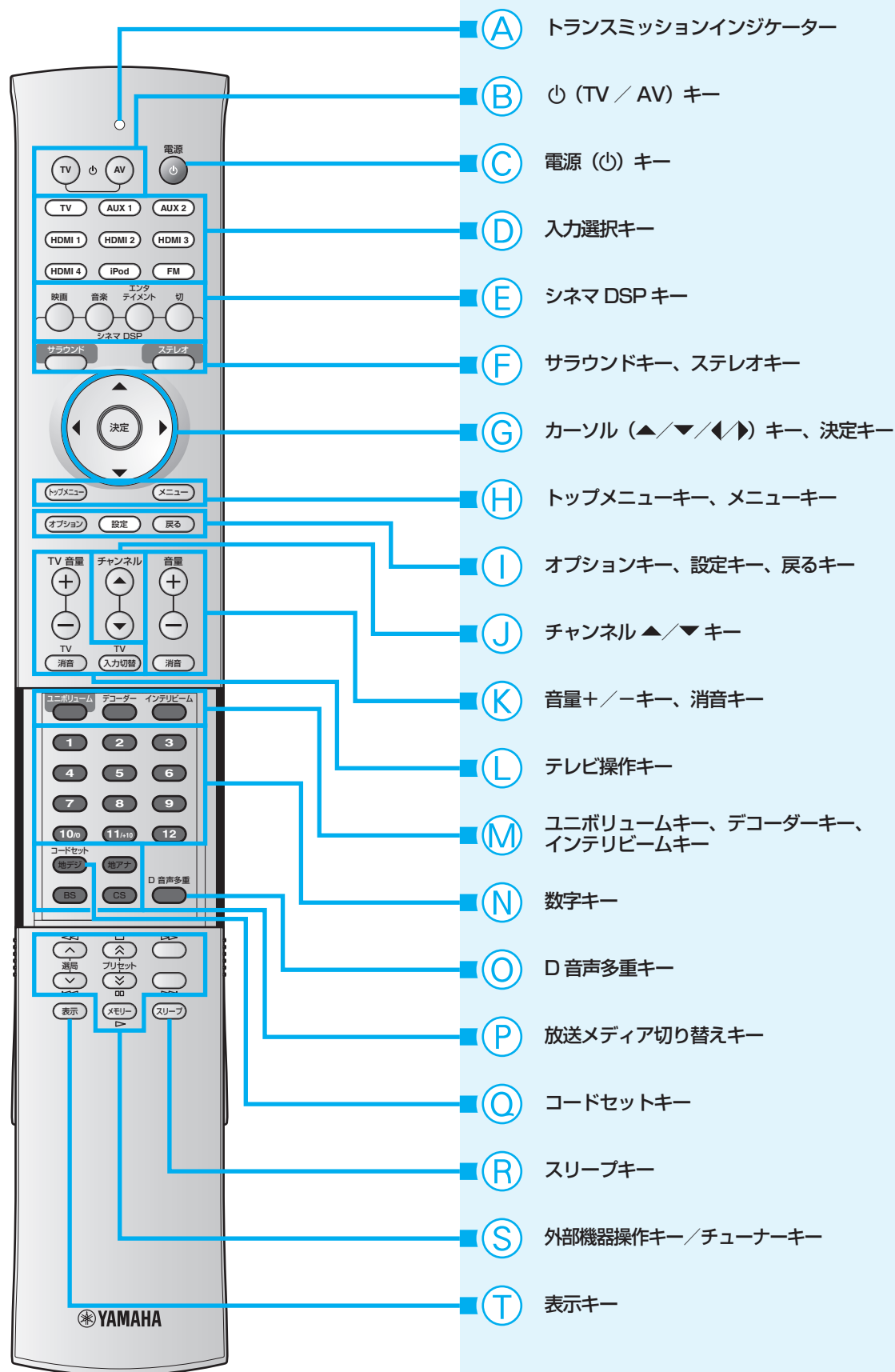
4 音声再生方法（サラウンド／ステレオ）やシネマ DSP、音声出力方法（ビーム）の設定を変更します。

「さまざまな再生モードを楽しむ」（33 ページ）

もっと本機でいろいろなことがしたい！という方は

5 手動設定やリモコンコード設定などを行います。

「本機を手動で設定する」（46 ページ）、「本機のリモコンで外部機器を操作する」（60 ページ）

リモコン操作キー対応ガイド

ヒント

右図は、スライドカバーが開いている状態を表しています。

ご注意

Ⓡスリープキー、Ⓢ外部機器操作キー／チューナーキー、Ⓣ表示キーは、スライドカバーが完全に閉じた状態で操作してください。

リモコンキーの機能

Ⓐ：リモコンを操作したときに点灯します。

Ⓑ：テレビや入力選択した機器の電源オン／スタンバイを切り替えます（60 ページ）。

Ⓒ：本機の電源のオン／スタンバイを切り替えます（30 ページ）。

Ⓓ：入力ソースを選択します（30 ページ）。リモコンキー操作時に、現在選択されている入力選択キーが点灯します。

Ⓔ：シネマ DSP 音場プログラムを選択します（33 ページ）。

Ⓕ：再生方法を切り替えます（33 ページ）。

Ⓖ：メニューを選択・決定します（24、28、47 ページ）。

Ⓗ：**（トップメニュー）**ブルーレイディスクや DVD のトップメニューを表示します（60 ページ）。

Ⓗ：**（メニュー）**ブルーレイディスクや DVD のメニューを表示します（60 ページ）。

Ⓘ：**（オプション）**オプションメニューを表示します（43 ページ）。リモコンが本体設定状態に切り替わります（設定キーが点灯します）。

Ⓘ：**（設定）**本機のセットアップメニューを表示したり、メニュー表示言語を設定（長押し）したりします（47、45 ページ）。本体設定状態に切り替えたときに点灯します。

Ⓘ：**（戻る）**1 つ前のメニューに戻ります（47 ページ）。

Ⓙ：テレビ／レコーダーのチャンネルを切り替えます（60 ページ）。

Ⓚ：**（音量＋／－）**本機の音量を調節します。調節範囲：MIN（最小）、01 ～ 99、MAX（最大）

Ⓚ：**（消音）**本機を消音します（31 ページ）。

Ⓛ：テレビを操作します。（60 ページ）

Ⓜ：**（ユニボリューム）**ユニボリュームのオン／オフを切り替えます（42 ページ）。

Ⓜ：**（デコーダー）**デコーダーを切り替えます（36 ページ）。

Ⓜ：**（インテリビーム）**本機を自動的に設定します（23 ページ）。リモコンが本体設定状態に切り替わります（設定キーが点灯します）。

Ⓝ：数字を入力します。

Ⓞ：デジタル音声多重の設定を切り替えます（31 ページ）。

Ⓟ：デジタル放送対応テレビ／レコーダーで受信する放送メディアを切り替えます（60 ページ）。

Ⓠ：リモコンコードを設定します（60 ページ）。

Ⓡ：スリープタイマーを設定します（43 ページ）。

Ⓢ：外部機器の再生や停止、チューナーの選局やプリセットなどを操作します（60、38 ページ）。

Ⓣ：入力信号の情報を表示します（45 ページ）。

もくじ

本機について

準備する

再生する

設定する

付録

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。● 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。● 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず AC100V (50/60Hz) の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

本機の電源（⏻）キーでスタンバイ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

アース接続は、電源プラグをコンセントに接続する前に行う。アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから抜いた後に行う。

電池

電池を加熱・分解したり、直射日光に晒したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐ
に水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
- 本機の上部（または下部）に5cm以上スペースが開くように設置する。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

禁止

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

必ず実行

心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から 22 cm 以上離して使用する。

ペースメーカーや除細動器に影響を与え重大事故につながる場合があります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

下記の場合には、すべての乾電池を新しいものに交換する。

- リモコンの操作範囲がせまくなった
- トランスミッションインジケーターが光らない、または光が弱くなった

古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池

必ず実行

新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。

異物が入ると、火災や故障の原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず 2 人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

無線ネットワークを使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避ける。

必ず実行

遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、デジタルサウンドプロジェクターの音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。
感電の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。

- 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
- 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
- 極端に寒いところ
- ほこりの多いところ

火災や故障の原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業･科学･医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

本機について
準備する
再生する
設定する
付録

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

CINEMA DSP

「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AirWired™

「エアワイヤード」「AirWired」は、ヤマハ株式会社の商標です。

DOLBY TRUE HD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD™ Master Audio

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。 以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/857,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

世界に広く特許申請中の Cambridge Mechatronics Ltd からライセンスを受けています。
‘ ’ は Cambridge Mechatronics Ltd の商標です。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は商標です。

iPod ™、iPhone ™

iPod は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標です。

「Made for iPod」とは、iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
「Works with iPhone」とは、iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。

本機について

はじめに

本機の特長

デジタルサウンドプロジェクター技術でサラウンド再生を簡単に実現

（15 ページ）

音声をビーム化することでリアルサラウンドを実現しています。ラックやスタンド、専用の壁掛け金具を使用して、インテリアに合わせた設置が可能です。

HD オーディオデコード対応

（32 ページ）

ドルビー TrueHD、DTS HD Master audio、マルチチャンネルリニア PCM などの HD オーディオに対応しています。また AAC にも対応し、デジタル放送も高音質で再生できます。

HDMI 準拠

（18 ページ）

HDMI 端子を装備し（1080p ／ DeepColor ／ｘ．ｖ .Color 対応、入力×４／出力×１）、手軽に高画質の映像 / 音声を転送できます。また HDMI コントロール機能対応のテレビと組み合わせれば、テレビのリモコンで本機を操作できます。

インテリビーム

（23 ページ）

お使いになるお部屋に合わせて最適な視聴空間を自動的につくりだします。

シネマ DSP

（33 ページ）

世界の著名なコンサートホールや劇場などで実際に測定した音場情報をご家庭で再現できるシネマ DSP を搭載しています。

iPod ／ iPhone のワイヤレス再生

（41 ページ）

別売りの iPod 用ワイヤレストランスミッター（YIT-W10）を使用して、iPod や iPhone をリモコンのように操作しながら本機で再生できます。

サブウーファーのワイヤレス接続

（21 ページ）

別売りのワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W10）を使用して、サブウーファーをワイヤレスで接続できます。

ユニボリューム

（42 ページ）

番組から CM へ切り替わる際の急激な音量変化を抑制したり、収録音量が小さい番組の音量を上げたりすることで、テレビの音声を聴きやすくします。

プリセットコード設定機能付リモコン

（60 ページ）

リモコンコードを設定することにより、付属のリモコンで外部機器を操作できます。

本書の記載について

・本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。キー操作時、フロントパネルディスプレイに「Not Available」と表示された場合、操作したキーは現在の状態では機能しないことを表しています。

・ご注意 では操作・設定を行う際に留意すべき事項、ヒント では知っておくと便利な補足情報を記載しています。

・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

効果的なサラウンドのために

本機はビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

・ビーム経路上に壁がない部屋

・壁の材質が吸音素材でできている部屋

・部屋の大きさが幅3m～7m、奥行き3m～7m、高さ2m～3.5mにあてはまらない部屋

・本機から視聴位置までの距離が1.8m未満の場合

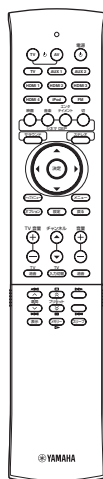
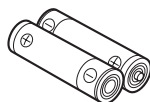
・ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋

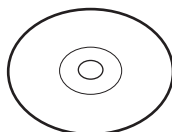
・壁に近いところに視聴位置がある場合

・視聴位置が本機の正面にない場合

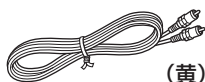
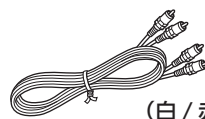
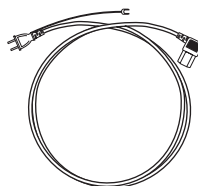
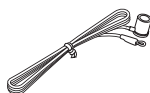
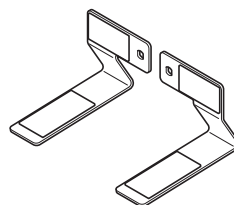
付属品を確認する

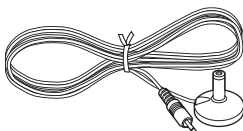
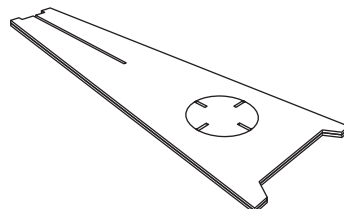
同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

リモコン：１個
（ii ページ）

単４乾電池：２本
（22 ページ）

簡易接続・操作ガイド：１枚

サラウンド確認用 DVD：１枚
（31 ページ）

サラウンド確認用 DVD 説明書：１枚

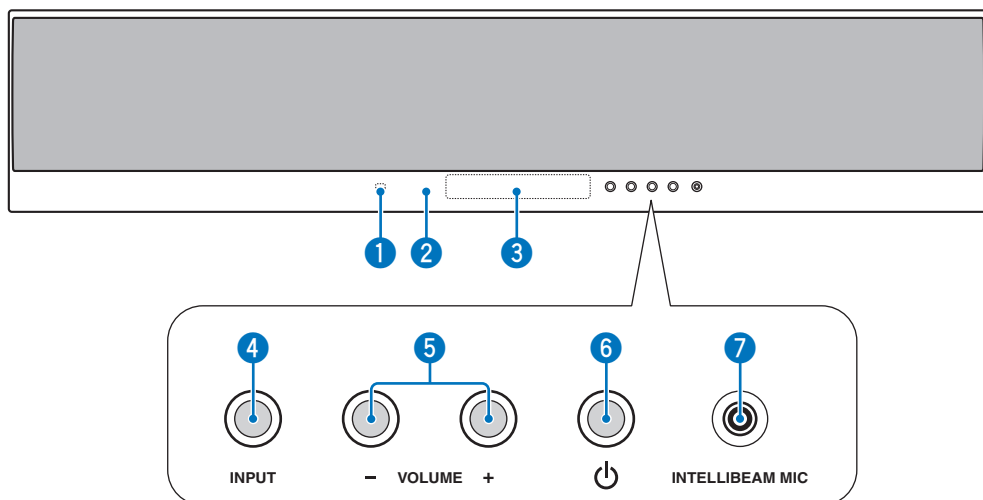
光ファイバーケーブル：
２本／ 1.5m（18 ページ）

ビデオ用ピンケーブル
１本／ 1.5m（18 ページ）

ステレオピンケーブル：
１本／ 1.5m（18 ページ）

電源コード：１本／ 2m
（19 ページ）

FM 簡易アンテナ：１本
（21 ページ）

転倒防止用スタンド：左右各１個
（15 ページ）

ねじセット（転倒防止スタンド用）：
２本１セット（15 ページ）

インテリビームマイク：
１本／ 6m（23 ページ）

簡易マイクスタンド：
２枚１セット（24 ページ）

ヒント

・付属のケーブルは、接続状況により余る場合があります。

各部の名称とはたらき

前面（フロントパネル）

❶ リモコン受光窓
リモコンの赤外線信号を受信します
（22 ページ）。

❷ 電源 LED
本機の電源がオンのときに点灯します（30 ページ）。

❸ フロントパネルディスプレイ
再生の状態や設定値などを表示します
（13 ページ）。

❹ INPUT（インプット）キー
入力ソースを選択します。

❺ VOLUME（ボリューム）＋ / −キー
本機の音量を調節します。

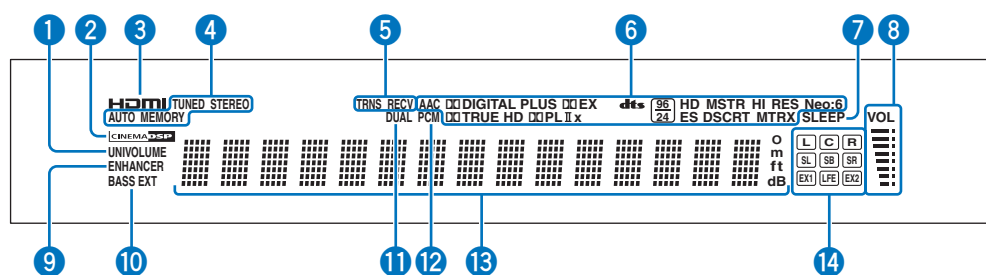
調節範囲：MIN（最小）、01 〜 99、MAX（最大）

❻ ⏻ キー
本機の電源のスタンバイ／オンを切り替えます（30 ページ）。

ご注意

・スタンバイになっているあいだも、HDMI信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

❼ INTELLIBEAM（インテリビーム）MIC（マイク）端子
付属のインテリビームマイクを接続します（23 ページ）。

フロントパネルディスプレイ

❶ UNIVOLUME（ユニボリューム）インジケーター
ユニボリュームがオンのときに点灯します（42 ページ）。

❷ CINEMA（シネマ） DSP インジケーター
シネマ DSP 音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（33 ページ）。

❸ HDMI インジケーター
HDMI 信号を入力しているときに点灯します。

❹ チューナーインジケーター
FM 放送を受信しているときに点灯します（21 ページ）。

❺ ワイヤレスインジケーター
TRNS 別売りのヤマハ製サブウーファーキットとの通信が確立しているときに点灯します（55 ページ）。（入力：iPod 以外）

RECV 別売りのヤマハ製 iPod 用トランスミッターとの通信が確立しているときに点灯します（41 ページ）。（入力：iPod）

❻ デコーダーインジケーター
本機に内蔵されているデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します（32 ページ）。

❼ SLEEP（スリープ）インジケーター
スリープタイマーを使用しているときに点灯します（43 ページ）。

❽ VOLUME（ボリューム）インジケーター
現在の音量を表示します（30 ページ）。

❾ ENHANCER（エンハンサー）インジケーター
エンハンサーがオンのときに点灯します（52 ページ）。

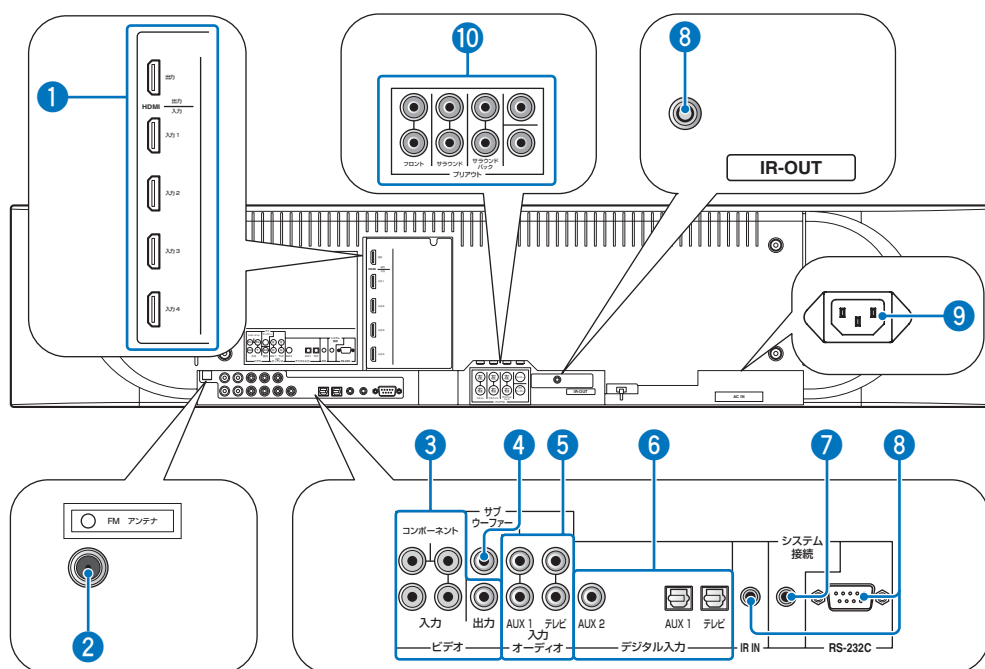
❿ BASS（バス） EXT（エクステンション）インジケーター
BASS EXTENSION がオンのときに点灯します（52 ページ）。

⓫ DUAL（デュアル）インジケーター
BS ／ CS ／地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（31 ページ）。

⓬ PCM インジケーター
PCM 信号を再生しているときに点灯します。

⓭ マルチインフォメーションディスプレイ
設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。電源オン時には、再生する機器名と現在の音声出力方法が表示されます。

⓮ 入力信号チャンネルインジケーター
入力信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します（32 ページ）。

背面（リアパネル）

ご注意

・本書の背面図では、見やすくするために端子と端子名を合わせて表示しています。

❶ HDMI 端子
外部機器と HDMI で接続します（18 ページ）。

❷ アンテナ端子
FM アンテナを接続します（38 ページ）。

❸ ビデオ端子
外部機器の映像端子と接続します（20 ページ）。

❹ サブウーファー端子
サブウーファーと接続します（21 ページ）。

❺ オーディオ入力端子
外部機器のアナログ音声出力端子と接続します（20 ページ）。

❻ デジタル入力端子
外部機器のデジタル音声出力端子と接続します（20 ページ）。

❼ システム接続端子
システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーとシステム接続します（21 ページ）。

❽ IR-OUT 端子／ IR IN 端子／ RS-232C 端子
メンテナンスやサービスに使用します。通常は使用しません。

❾ AC IN 端子
本機の電源コードを接続します（19 ページ）。

❿ プリアウト端子
外部パワーアンプを接続します（59 ページ）。

準備する

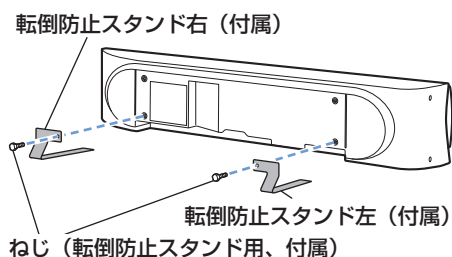
設置する

本機をラックや壁掛け金具、テーブルトップスタンドを使用してリスニングルームに設置します。十分なサラウンド効果を得るため、家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください（次ページ図参照）。設置の前に、ケーブルを本機に接続したほうがよい場合があります。その場合は、先に接続を行ってください（18 ページ）。

設置上のご注意

・本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。本機の上部（または下部）に5cm以上スペースが開くように設置してください。上部または下部にスペースがないラックの場合は、熱がこもらないよう後部に十分な通気スペースを確保してください。ヤマハ推奨のラックは安全性を確認済みですので、安心してご使用いただけます。
・地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。
・ブラウン管式テレビなど、発熱体の上へは直接設置しないでください。
・万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。

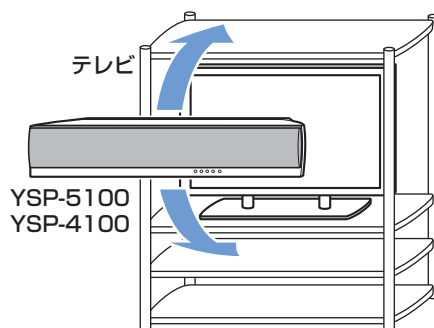
転倒防止用スタンドを取り付ける

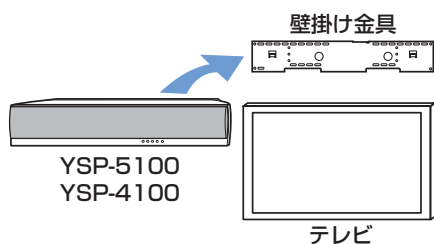
下図を参考に転倒防止用スタンド（付属品）を取り付けてください。スタンドの左右と取り付け穴の位置にご注意ください。別売りのYSP 専用壁掛け金具に本機を設置する場合、転倒防止スタンドの取り付けは不要です。

ご注意

・本機を設置するラックやスタンドにより、転倒防止スタンドの取り付けが不要な場合があります。

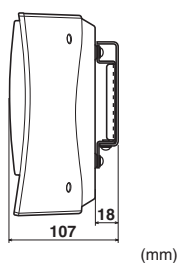
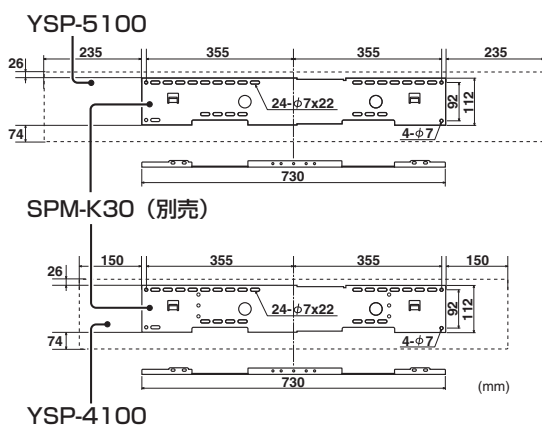
ラックを使用して設置する

市販のラックを使用して、本機をテレビの上、または下に設置します。

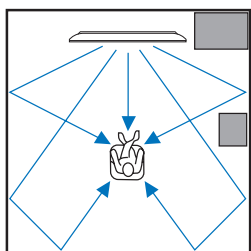
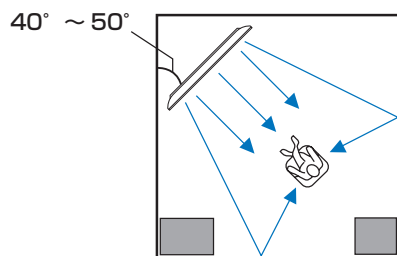
ラックは本機とテレビを設置するのに十分なサイズと放熱スペース、強度を持ったものをご使用ください。

壁掛け金具を使用して設置する

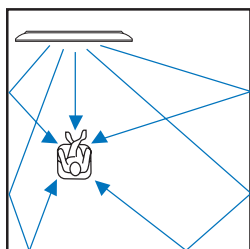
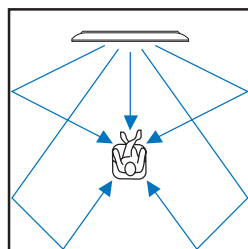
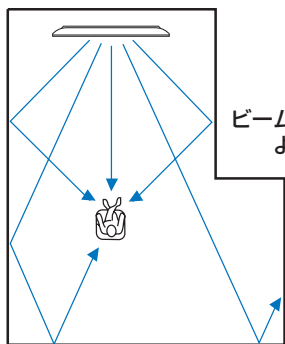
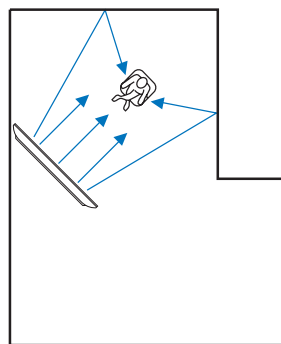
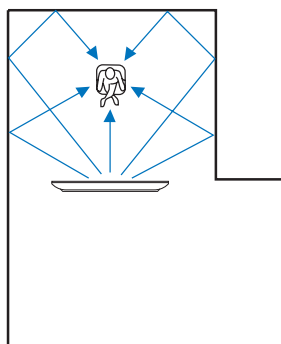
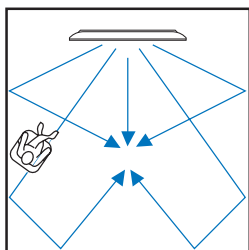
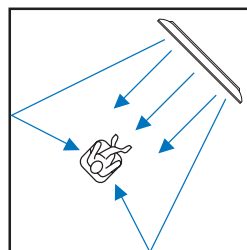
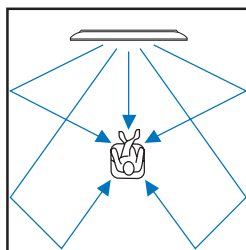
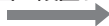
別売りの壁掛け金具（SPM-K30 など）を使用して本機を壁に設置します。
壁掛け金具の取り付け：壁掛け金具に付属の取扱説明書参照

SPM-K30 取り付け時の寸法

スタンドを使用して設置する

市販のテーブルトップスタンドやフロアスタンドを利用して、本機やテレビをセットで取り付けます。

理想的な設置状態

：家具などの障害物

〔壁と平行に設置：
５ビームに設定した場合〕

〔コーナーに設置：
ステレオ＋３ビームに設定した場合〕

サラウンド効果を高める設置方法

設置例 1

できるだけ左右の壁の
中央に設置する

設置例 2

設置例 3

できるだけ視聴位置の
正面に設置する

接続する

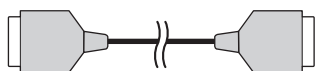
接続の基礎知識

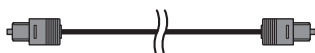
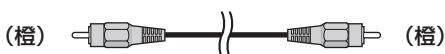
接続ケーブルについて

本機と外部機器との接続では、以下のケーブルを使用します。ケーブル名左側のⒶや❶、①などの記号は、19、20 ページに記載している記号と対応しています。

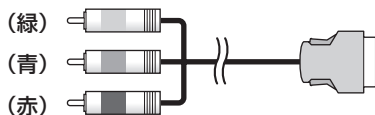
音声・映像

Ⓐ HDMI ケーブル

音声

❶ ステレオピンケーブル（付属）

❷ 光ファイバーケーブル（付属）

❸ デジタル音声ピンケーブル

映像

① ビデオ用ピンケーブル（付属）

② D 端子ーコンポーネントビデオケーブル

HDMI について

HDMI 端子を使えば、1 本のケーブルで映像および音声信号を伝送するので、簡単に接続することが可能です。HDMI 端子を使って接続する場合は、本機とテレビ、および本機と再生機器の両方を HDMI 接続してください。
関連機能：「HDMI コントロール機能を使用する」、「入力の設定を変更する」 42、53 ページ

入力ソース	音声信号の種類
ブルーレイディスク／HD DVD	ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾルーションオーディオ、DTS-HD マスターオーディオ、2 チャンネル PCM、マルチチャンネル PCM
DVD Video	ドルビーデジタル、DTS、2 チャンネル PCM、マルチチャンネル PCM
DVD Audio	2 チャンネル PCM、マルチチャンネル PCM

ヒント

- 本機はアナログ映像・音声信号を変換して、HDMI OUT端子から出力できます。
- 本機のHDMIは著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。
- 接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをご使用ください。また、長さ5.0m以下のものを使用することをおすすめします。

音声入力信号の優先順位について

選択中の入力ソースにおいて、アナログ音声とデジタル音声の入力が同時に存在する場合、本機はデジタル入力を優先します。例えば、オーディオ入力（AUX 1）端子とデジタル入力（AUX 1）端子に同時に音声信号が入力されている場合、本機はデジタル入力（AUX 1）の音声を再生します。

外部機器を接続する

テレビやブルーレイディスクレコーダーなどの外部機器を本機に接続します。すべての接続が完了するまで、電源ケーブルは接続しないでください。

テレビとブルーレイディスクレコーダーを接続する

テレビとブルーレイディスクレコーダーを接続します。以下の図は、HDMI 端子を使用した接続例です。他の端子を使用して接続する場合は、「音声／映像機器を接続する」をご覧ください（20 ページ）。ケーブル横の記号は、「接続ケーブルについて」（18 ページ）の記号と対応しています。

テレビ

ブルーレイディスクレコーダー

HDMI
出力

光デジタル
音声出力

HDMI
入力

A

2

A

1. 両端のキャップを外す
（キャップ付きの場合）

2. 向きを確認して接続する

出力

HDMI 出力 入力

入力 1

入力 2

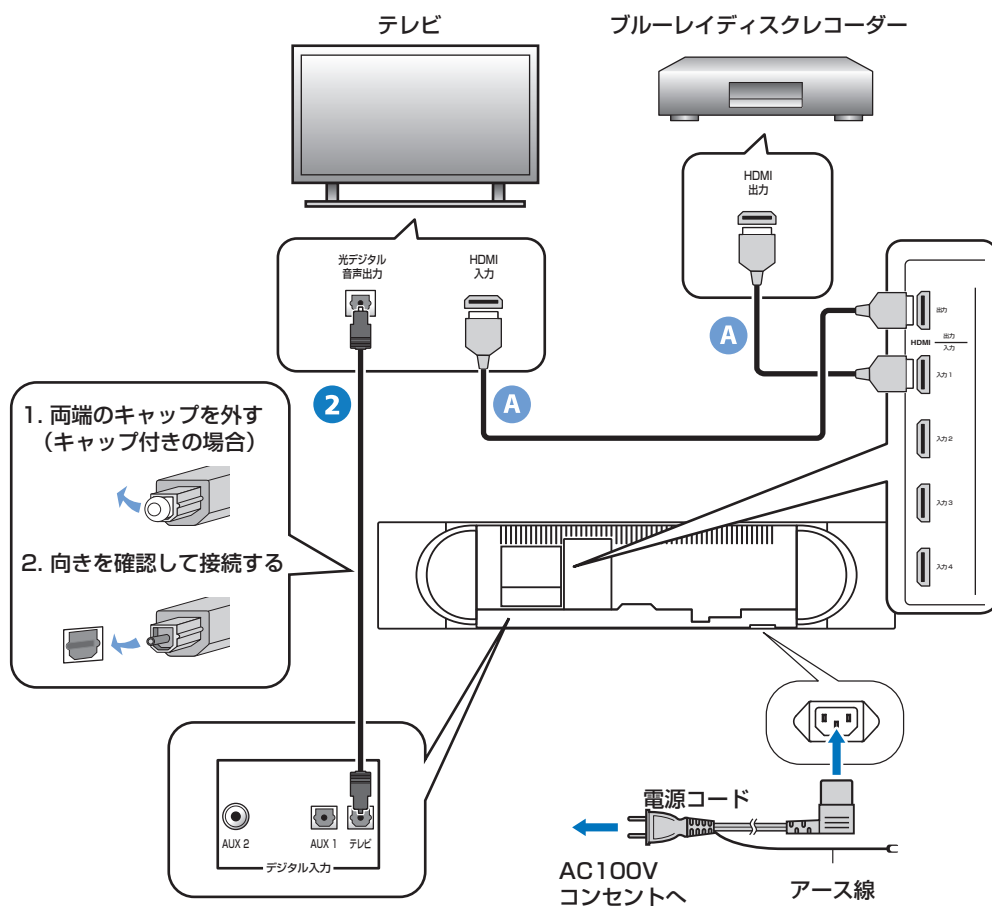
入力 3

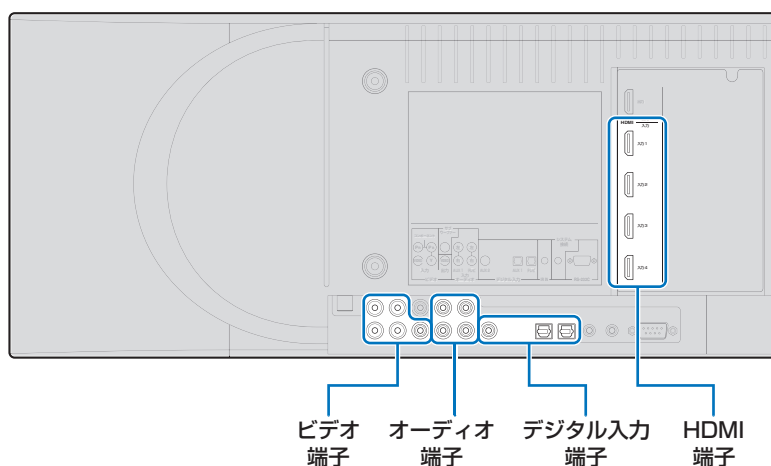
入力 4

AUX 2　AUX 1　テレビ
デジタル入力

電源コード

AC100V
コンセントへ

アース線

音声／映像機器を接続する

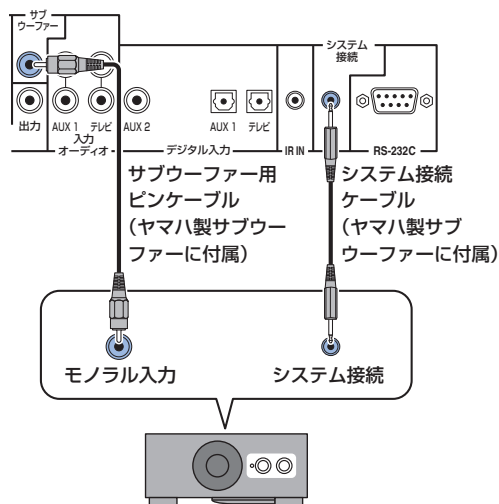
本機と外部機器が装備している端子に合わせて、使用する端子を決定してください。下表「使用するケーブル」欄の記号は、「接続ケーブルについて」（18 ページ）の記号と対応しています。

接続する機器	信号種類	接続する端子		使用するケーブル	入力選択時に使用するキー
		外部機器側	本機側		
テレビ	映像	ビデオ入力	ビデオ出力（VIDEO）	1	
	音声	アナログ出力	オーディオ入力（テレビ）	1	TV
HDMI 出力を持つ機器	音声／映像	HDMI 出力	HDMI 入力 1～4	A	HDMI 1～4
D1 ～ D4 出力を持つ機器	音声	同軸デジタル出力	デジタル入力（AUX 2）	3	AUX 2
	映像	D1 ～ D4 ビデオ出力	ビデオ入力（コンポーネント）	2	
ビデオ出力を持つ機器	音声	光デジタル出力	デジタル入力（AUX 1）	2	AUX 1
		アナログ出力	オーディオ入力（AUX 1）	1	
	映像	ビデオ出力	ビデオ入力（VIDEO）	1	

ヒント

・ビデオ入力端子から入力した映像信号は、ビデオ出力端子に加え、HDMI出力端子からも出力できます。コンポーネント入力端子から入力した映像信号は、HDMI出力端子から出力します。

サブウーファーを接続する

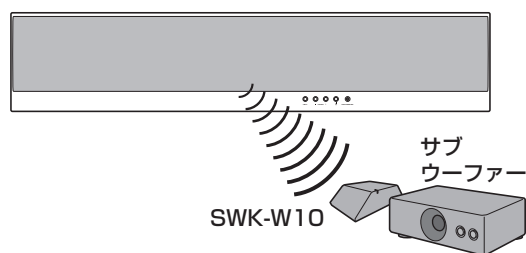
ケーブルを使用した接続

サブウーファーのモノラル入力端子を本機のサブウーファー端子に接続します。

ヒント

・ヤマハ製サブウーファーのシステム接続端子を本機のシステム接続端子に接続すると、本機の電源に連動してサブウーファーの電源が動作します。

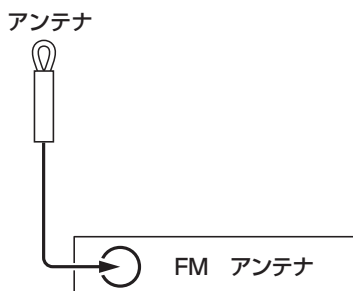
ワイヤレスでの接続

別売りのワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W10）を使用して、本機とワイヤレスで接続します。

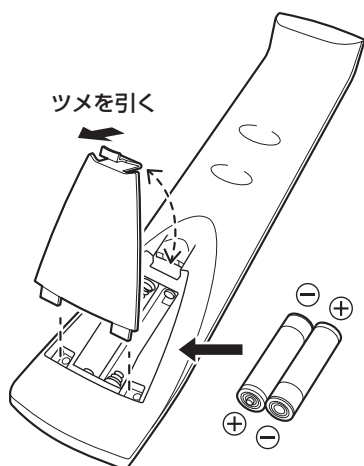
接続：SWK-W10 に付属の取扱説明書参照

ヒント

・サブウーファーから音声が出力されない場合は、本機のグループID（55 ページ）とSWK-W10のグループIDが一致しているかご確認ください。

FM アンテナを接続する

付属の FM 簡易アンテナや、お手持ちのアンテナをアンテナ端子に接続します。

リモコンを準備する

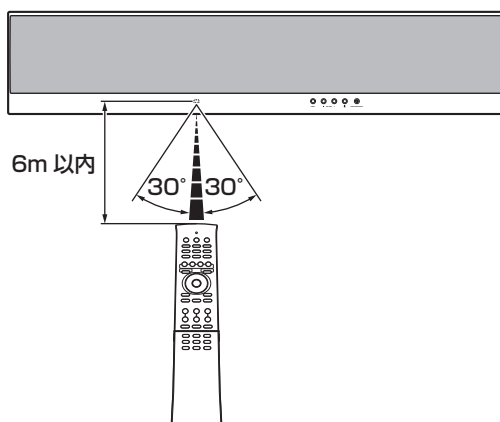
乾電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」および「リモコン」をよくお読みください。

リモコンに乾電池を入れる

1 バッテリーカバーのツメを引きながら、カバーをリモコンから取り外す。

2 付属の単４乾電池（２本）を、極性（＋／－）に注意して電池ケースに挿入する。

3 カバーをリモコンに装着する。

リモコンの操作範囲

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓（12 ページ）に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6m 以内で正面から左右に 30° 以内です。

自動設定する（インテリビーム）

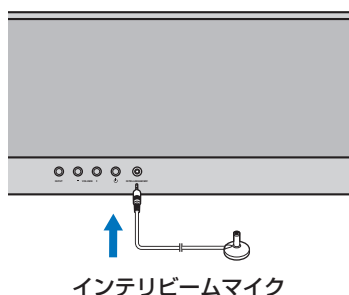
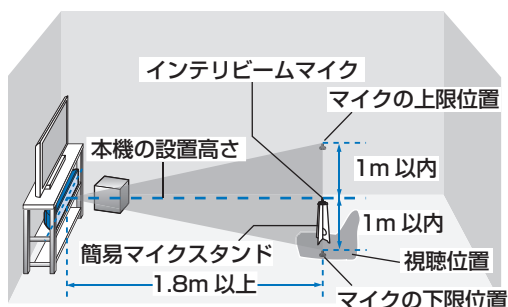
本機のサラウンド効果を最大に発揮させるため、音声出力を設定します。

ご注意

- 自動設定機能を使用していないときは、インテリビームマイクをINTELLIBEAM MIC端子から外して保管してください。
- インテリビームマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。
- 「音声出力」で「プリアウト」を選択している場合、自動設定は使用できません（52 ページ）。
- YIT-W10を使用してiPod/iPhoneを再生している場合は自動設定を実行できません。自動設定を実行するには再生を停止し、iPod/iPhoneをYIT-W10から取り外してください。YIT-W10について詳しくは、YIT-W10に付属の取扱説明書をご覧ください。

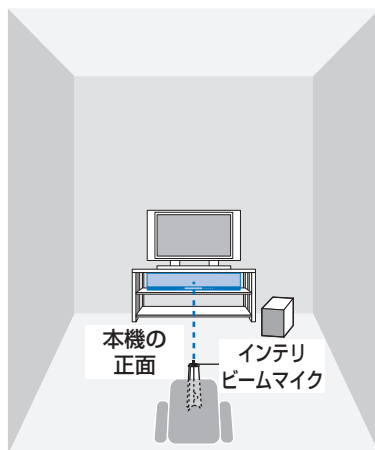
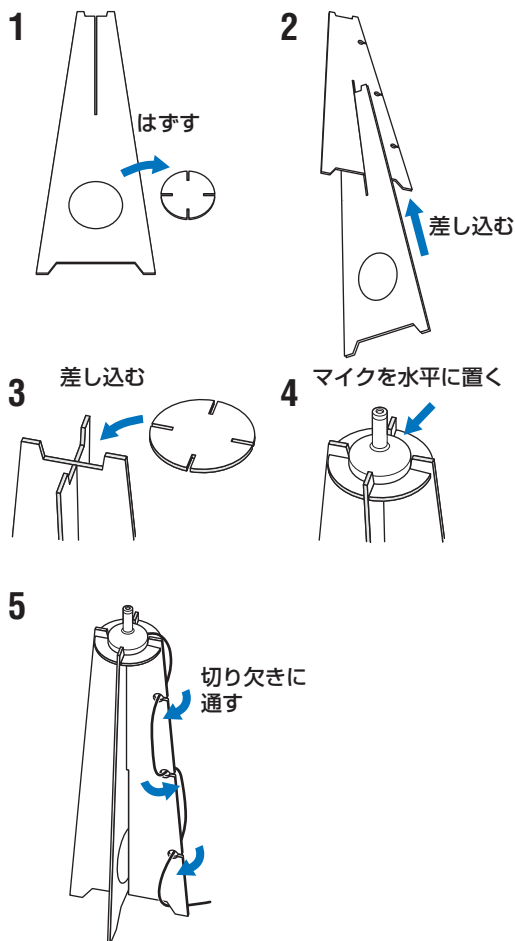
インテリビームマイクを設置する

自動設定で使用する、付属のインテリビームマイクを設置します。

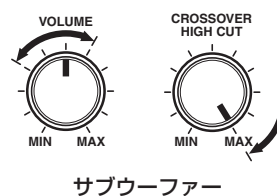
1 インテリビームマイクを本体の INTELLIBEAM MIC 端子に接続する。

2 インテリビームマイクを視聴位置に水平に設置する。

マイクは本機から 1.8m 以上離し、本機の正面に設置してください。
また、本機の中心から上下 1m 以内の高さに設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

ヒント

- 簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

簡易マイクスタンドの組立て方法

ヒント

・サブウーファーを接続している場合は、電源を入れて、音量を約半分（下図左の位置）に設定してください。クロスオーバー周波数の調節機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大（下図右の位置）に設定してください。

サブウーファー

自動的に測定・設定する

自動設定には「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」の３つの選択項目があります。

選択項目について

「ビーム調整＋音質調整」

購入後、初めて設定を行う場合に選択します。測定開始から終了まで約３分です。

「ビーム調整」

ご利用の環境に合わせてビーム角度のみ設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約１分です。

「音質調整」

音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約２分です。

「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「ビーム調整」で調節したあとなどにご使用ください。

G
I
M

ご注意

・測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様が部屋にいる場合や部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
・測定中は部屋の外に出てください。部屋の中にいると、ビーム経路に重なってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。
・壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
①カーテンやブラインドを開ける ②「ビーム調整」を行う ③カーテンやブラインドを閉める ④「音質調整」を行う
・エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

ヒント

・設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、Ⓘ戻るキーを押してください。

1 Ⓘ 設定キーを押す。

メニュー下部の表示は操作方法を表しています。

メニュー
→・メモリー
・自動設定
・詳細設定
・サウンド設定
・サウンド出力設定
・入力設定
・表示設定
[▲] / [▼] : 移動
[決定] : 決定

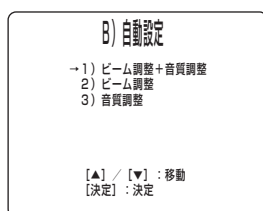
ヒント

・「ビーム調整+音質調整」(24 ページ)を行いたい場合、Ⓘ設定キーの代わりにⓂインテリビームキーを2秒以上押します。その場合、手順4へお進みください。

2 Ⓖ ▲ / ▼ キーで「自動設定」を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

B) 自動設定
→1) ビーム調整+音質調整
2) ビーム調整
3) 音質調整
[▲] / [▼] : 移動
[決定] : 決定

3 Ⓖ ▲ / ▼ キーで「ビーム調整+音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」のいずれかを選択し(24 ページ)、Ⓖ 決定キーを押す。

自動設定 確認・準備
マイクを接続してください。
マイクを本体の正面で1.8m以上離し、
正しい高さに設置してください。
測定にはおよそ3分かかります。
決定を押したら部屋から出てください。
[決定] : 開始 [戻る] : 中止

4 部屋の外に出る準備をする。

部屋の中にいると、最適な設定が行われない場合があります。手順5の操作から10 秒以内に部屋の外に出られるよう準備してください。

ヒント

・測定中は部屋の外でお待ちください。
・測定開始から終了まで、最長で約3分かかります。
・測定中に自動設定を中止したい場合は、Ⓘ戻るキーを押してください。

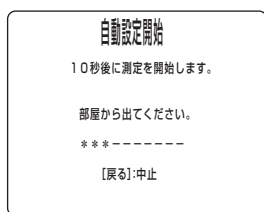
5 Ⓖ決定キーを押して測定を開始し、10 秒以内に部屋の外に出る。

自動設定開始

１０秒後に測定を開始します。

部屋から出てください。

＊＊＊－－－－－－－

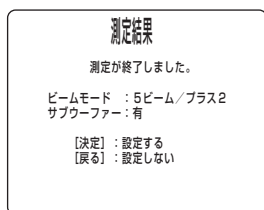
［戻る］:中止

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。エラー音（ブザー音）が出力された場合、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージとエラー後の操作について」(27 ページ) を参照してください。

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。手順 3 で「ビーム調整」を選択した場合、サブウーファーの測定結果は表示されません。

測定結果

測定が終了しました。

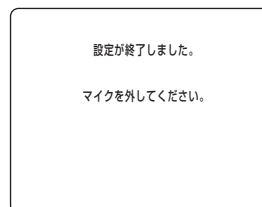
ビームモード　：５ビーム／プラス２
サブウーファー：有

［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

ヒント

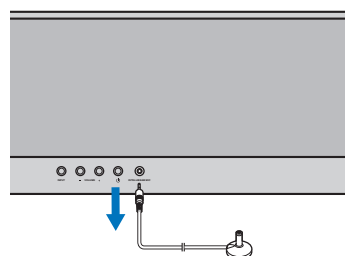
- 「環境チェック・・・［NG］」と表示された場合は、27 ページのエラーE-1 を参照し、Ⓘ戻るキーを押してから、再度測定することをおすすめします。
- サブウーファーが接続され、電源がオンになっているにもかかわらず、「サブウーファー：無」と表示された場合は、接続を確認し、サブウーファーの音量を上げてから、再度測定をしてください。
- 「ビームモード：5ビーム」と表示された場合でも、部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

6 Ⓖ決定キーを押す。

測定結果が設定されます。
2 秒後にメニューが消えます。

ヒント

- 設定しない場合はⒾ戻るキーを押してください。画面は初期表示に戻ります。

7 マイクを外す。

設定完了です。マイクは大切に保管してください。

測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。ただし、自動設定をやり直したり、詳細設定で設定値を変更した場合は、設定結果が上書きされます。

エラーメッセージとエラー後の操作について

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認し問題を解決してください。

「エラー E-1」の場合：Ⓖ 決定キーを押して再度測定する。

その他のエラーの場合：Ⓘ 戻るキーを押す。

手順 1 で Ⓜ インテリビームキーを押して測定を開始した場合：メニュー画面が消えたことを確認し、手順 1 から再度操作する（24 ページ）。

手順 1 で Ⓘ 設定キーを押して測定を開始した場合：手順 1 の画面（メニューの初期画面）が表示されたことを確認し、手順 2 から再度操作する（24 ページ）。

エラーが解決できない場合は、手動で設定してください（46 ページ）。

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます。

原因	対策
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやり直してください。

エラー　E-2: マイクの接続を確認してください。

原因	対策
インテリビームマイクが接続されていません。	本機前面の INTELLIBEAM MIC 端子にインテリビームマイクを接続してください。

エラー　E-3: 測定中に操作されました。

原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないでください。

エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください。

原因	対策
インテリビームマイクが本機正面に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面に設置してください。

エラー　E-5: マイクを本体から 1.8m 以上離して設置してください。

原因	対策
インテリビームマイクが本機から 1.8m 未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から 1.8m 以上離して設置してください。

エラー　E-6: マイクから十分な入力がありません。マイクの接続・設置位置を確認してください。

原因	対策
テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく接続、設置してください。

エラー　E-7: エラーです。

原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	再度測定してください。

メモリー機能を使用する

３種類の異なる設定を本機に保存し、状況に応じて使い分けられます。例えば、ビーム経路上にカーテンなどの吸音物がある場合はビームの効果が減少します。そこで、カーテンを開けた状態の設定と閉じた状態の設定を別々に保存し、開閉に応じてそれぞれのメモリーを呼び出します。これにより、状況に応じた最適なサラウンド効果が楽しめます。

ヒント

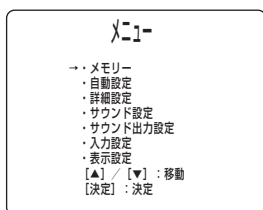
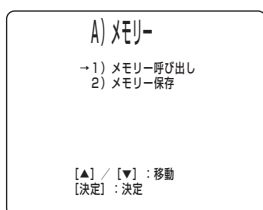
カーテンの開閉に応じて設定を使い分ける場合、以下のように設定することをおすすすめします。
1）カーテンを開けた状態で「ビーム調整＋音質調整」（24 ページ）を行い、「メモリー 1」に保存する
2）カーテンを閉めた状態で「音質調整」（24 ページ）を行い、「メモリー 2」に保存する

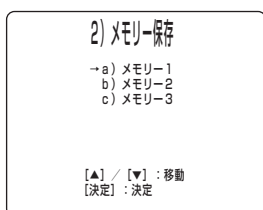
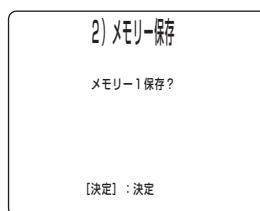
測定結果をメモリーに保存する

1 Ⓘ 設定キーを押す。

2 Ⓖ 決定キーを押す。

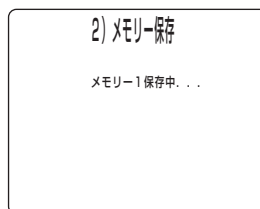
A）メモリー
→1）メモリー呼び出し
2）メモリー保存
［▲］／［▼］：移動
［決定］：決定

3 Ⓖ ▲ /▼ キーで「メモリー保存」を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

2）メモリー保存
→a）メモリー1
b）メモリー2
c）メモリー3
［▲］／［▼］：移動
［決定］：決定

4 Ⓖ ▲ /▼ キーでいずれかのメモリー番号を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

2）メモリー保存
メモリー1保存？
［決定］：決定

ヒント

・選択したメモリー番号に設定がすでに保存されている場合、新しい設定を上書きします。

5 Ⓖ 決定キーを押す。

設定が保存されます。

2）メモリー保存
メモリー1保存中. . .

保存したメモリーを呼び出す

1 Ⓘ 設定キーを押す。

2 Ⓖ 決定キーを押す。

A) メモリー
→1) メモリー呼び出し
2) メモリー保存

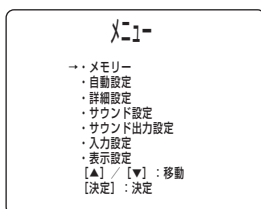
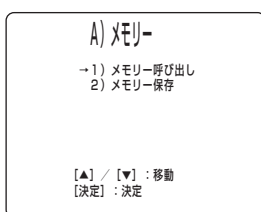
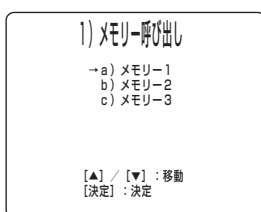
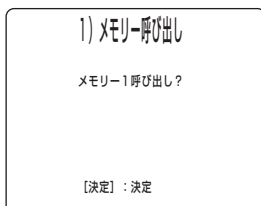
[▲] / [▼] : 移動
[決定] : 決定

3 Ⓖ 決定キーを押す。

4 Ⓖ ▲ / ▼ キーでいずれかのメモリー番号を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

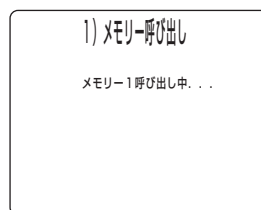
1) メモリー呼び出し

メモリー1呼び出し?

[決定] : 決定

5 Ⓖ 決定キーを押す。

メモリーが呼び出されます。

1) メモリー呼び出し

メモリー1呼び出し中. . .

再生する

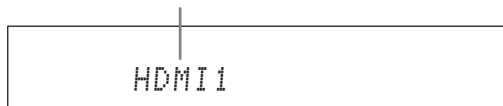
再生のしかた

再生の基本操作

外部機器の操作：機器に付属の取扱説明書参照

1 ⓒ電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

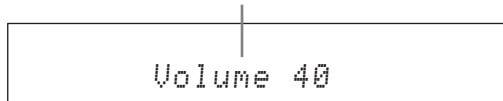
2 本機に接続した外部機器（テレビやブルーレイディスクプレーヤーなど）の電源をオンにする。

3 外部機器の接続に合わせて、ⓓ入力選択キーを押す。

ヒント

・表示される入力ソース名を変更できます（54 ページ）。

4 入力ソースとして選択した外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選択する。

- FM 放送を聴く（38 ページ）
- iPod／iPhone を再生する（41 ページ）

5 音量を調節するには、ⓚ音量＋／－キーを押す。

6 本機の電源をスタンバイにするには、ⓒ電源（⏻）キーを押す。

テレビを再生する

1 見たいチャンネルを選ぶ。

2 ⓓTV キーを押す。

テレビの再生モードに切り替わります。

3 テレビを消音する。

ヒント

・テレビと本機をデジタル音声端子で接続している場合、テレビ側の音声出力設定がデジタル出力（「ビットストリーム」、「AAC」など）になっていることをご確認ください。
・テレビと本機をデジタル音声端子で接続している場合、本機にデジタル放送のデジタル音声信号が正しく入力されているかを確認できます。信号が正しく入力されている場合、フロントパネルディスプレイのAACインジケーターが点灯します。PCMインジケーターが点灯する場合は、テレビ側の音声出力設定をご確認ください。

デジタル音声多重を切り替える

BS ／地上デジタル放送の AAC 信号入力時に、再生する音声を選択します。

ⓒD 音声多重キーを繰り返し押す。

再生する音声の設定が切り替わります。

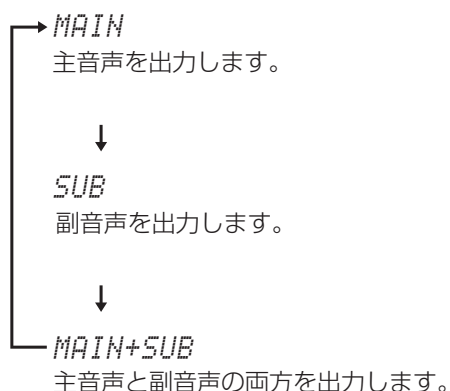
MAIN
主音声を出力します。

↓

SUB
副音声を出力します。

↓

MAIN+SUB
主音声と副音声の両方を出力します。

ご注意

・ソースに副音声が収録されていない場合、音声は切り替わりません。

レコーダーなどを再生する

1 テレビの映像入力をレコーダーの映像に切り替える。

2 レコーダーの接続に合わせて、ⒹHDMI 1～4キーまたは ⒹAUX 1／2キーを押す。

例えば、レコーダーを本機の HDMI 入力 1に接続した場合は、ⒹHDMI 1キーを押します。
レコーダーの再生モードに切り替わります。

3 レコーダーを再生する。

4 テレビを消音する。

ヒント

・レコーダーがHDオーディオに対応している場合は、レコーダー側の音声出力設定がHDオーディオ対応出力（「自動」、「ビットストリーム」など）になっていることをご確認ください。
・レコーダーがHDオーディオに対応していない場合は、レコーダー側の音声出力設定がマルチチャンネルリニアPCMになっていることをご確認ください。
・レコーダーと本機をデジタル音声端子で接続している場合、レコーダー側の音声出力設定がデジタル出力（「ビットストリーム」、「ドルビーデジタル」、「DTS」など）になっていることをご確認ください。
・レコーダーの音声設定をマルチチャンネルモードにすると、より豊かなサラウンドサウンドをお楽しみいただけます。
・レコーダーと本機をデジタル音声端子、またはHDMI端子で接続している場合、本機にデジタル音声信号が正しく入力されているかを確認できます。サラウンド確認用DVD（付属）を再生してください。信号が正しく入力されている場合、フロントパネルディスプレイの ꓷꓒDIGITAL インジケーターが点灯します。

一時的に消音する（ミュート）

1 リモコンの Ⓚ 消音キーを押す。

2 消音を解除するには、再度 Ⓚ 消音キーを押す。

内蔵デコーダーと入力信号インジケーター表示

デコーダー表示

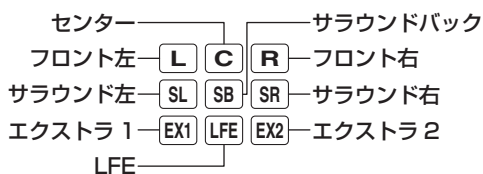
本機では、内蔵したデコーダーにより、さまざまなソースを楽しめます。入力している音声信号は自動的に選択され、以下のようにフロントパネルディスプレイのインジケーターが点灯します。

状況	インジケーター表示
デジタル放送または AAC 信号入力中	AAC
音声多重信号入力中	DUAL
PCM 信号入力中	PCM
ドルビー TrueHD 信号入力中	DD TRUE HD
ドルビーデジタルプラス信号入力中	DD DIGITAL PLUS
ドルビーデジタル信号入力中	DD DIGITAL
ドルビープロロジックデコーダー選択中	DD PL
ドルビープロロジックⅡデコーダー選択中	DD PLⅡ
ドルビープロロジックⅡxデコーダー選択中	DD PLⅡx
DTS HD マスターオーディオ信号入力中	dts ＋ HD ＋ MSTR
DTS HDハイレゾリューション信号入力中	dts ＋ HD ＋ HI RES
DTS デジタル信号入力中	dts
DTS 96 ／ 24 デコーダー選択中	dts ＋ 96/24
DTS ES discrete デコーダー選択中	dts ＋ ES ＋ DSCRT
DTS ES matrix デコーダー選択中	dts ＋ ES ＋ MTRX
DTS Neo:6 デコーダー選択中	dts ＋ Neo:6

ヒント

・「Decoder Mode」（44 ページ）で、再生する音声信号を選択できます。

入力信号チャンネルインジケーター表示

センター
サラウンドバック
フロント左 L C R フロント右
サラウンド左 SL SB SR サラウンド右
エクストラ 1 EX1 LFE EX2 エクストラ 2
LFE

入力信号に含まれているチャンネル数により、以下のようにフロントパネルディスプレイの入力信号チャンネルインジケーターが点灯します。

入力信号	入力信号チャンネルインジケーター表示
ステレオ（2 チャンネル）	L R
5.1 チャンネル	L C R / SL SR / LFE
6.1 チャンネル	L C R / SL SB SR / LFE
7.1 チャンネル	L C R / SL SR / EX1 LFE EX2

ヒント

・エクストラ（EX1 ／ EX2）インジケーターは、ブルーレイディスクなどの7.1チャンネル信号を入力しているときに点灯します。通常、エクストラチャンネルにはサラウンドバック信号が収録されていますが、ディスクにより異なる場合があります。

さまざまな再生モードを楽しむ

再生方法（サラウンド／ステレオ）やシネマ DSP、デコーダーを切り替えて、本機の再生を楽しみます。

サラウンド／ステレオを切り替える

再生方法（サラウンド／ステレオ）を切り替えます。

関連機能：「シネマDSPを楽しむ」33 ページ、「サラウンドの音声出力方法を切り替える」35 ページ

Ⓕ サラウンドまたは Ⓕ ステレオキーを押す。

サラウンドではリアルな臨場感を、ステレオでは高品質な音声を楽しめます。

ヒント

- ステレオではビーム化しない通常の音声がフロント左／右チャンネルから出力されます。マルチチャンネルソースはフロント左／右チャンネル以外のチャンネル音声をフロント左／右チャンネルにミックスして出力します。
- ステレオで再生しているときは、シネマDSP（33 ページ）、およびデコーダー切替（36 ページ）の機能は無効です。

シネマ DSP を楽しむ

シネマ DSP（デジタル･サウンドフィールド･プロセッサー）とは、世界の著名なコンサートホールや劇場などで測定したデータに基づく音場（音の広がり）技術を応用することにより、ご家庭で映画館のような視聴体験を実現する機能のことです。

ヒント

- シネマDSPを楽しむときは、Ⓕサラウンドキーを押して本機をサラウンド再生状態にしてから下記の手順を操作してください。
- 以下の場合はシネマDSPの機能は無効です。
  - 2チャンネルステレオで再生している
  - HDオーディオ信号を再生している
  - サンプリング周波数が96kHzを超える信号を再生している
  - プリアウト端子から音声信号を出力している

1 選択したい Ⓔ シネマ DSP キーを押す。

選択したカテゴリがフロントパネルディスプレイに表示され、シネマ DSP インジケーター（13 ページ）が点灯します。

2 カテゴリが表示されている間に、Ⓔ シネマ DSP キーを繰り返し押す。

プログラムが切り替わります。

ヒント

- シネマDSPをオフにするには、リモコンのⒺ切キーを押してください。

映画（MOVIE）

SFX
音楽および効果音が、SF の映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高いSFX 映画に適しています。

Adventure（アドベンチャー）
音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。

Spectacle（スペクタクル）
ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

音楽（MUSIC）

Music Video（ミュージックビデオ）
ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像／音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

Concert Hall（コンサートホール）
ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールの 1 階座席にいるような臨場感をつくりだします。豊麗な響きと落ち着いた雰囲気を感じることができます。

Jazz Club（ジャズクラブ）
ニューヨークにかつて存在したライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

エンタテイメント（ENTERTAINMENT）

Sports（スポーツ）
スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

Variety（バラエティー）
トークの聞き取りやすさはそのままに、客席の賑やかさが周りを包み込んで、番組の楽しさが倍増します。バラエティー番組、トークショーなどをライブ感豊かに楽しめます。

Drama（ドラマ）
セリフは明瞭さを保ちつつ質感を高め、効果音や BGM には自然な雰囲気と立体感を与えます。シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの番組に対応します。

Game（ゲーム）
RPG や、アドベンチャーゲームなどに最適な音場です。映画用の音場効果などを用いて、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を楽しめます。

Mch Stereo（マルチチャンネルステレオ）
フロントおよびサラウンドの左からはＬｃｈの音声を、フロント及びサラウンドの右からはＲｃｈの音声を出すことで、広いエリアでステレオ音声をお楽しみいただくことができます。ホームパーティーなどを行うときに最適です。

サラウンドの音声出力方法を切り替える

ビームの出力チャンネル数や出力方法を設定します。

1 *Ⓘ 設定キーを押す。*

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 *Ⓖ ▲／▼ キーとⒼ決定キーを押して、「サウンド出力設定」→「ビーム出力設定」→「チャンネルアウト」を選択する。*

3 *Ⓖ◀／▶ キーを押して、出力するチャンネル数を選択する。*

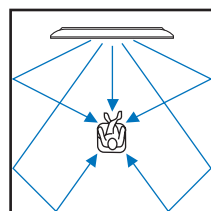
選択項目：5.1ch、7.1ch
初期設定：7.1ch

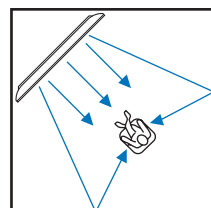
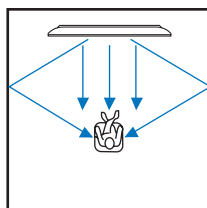
4 *Ⓖ ▼ キーを押して、「ビームモード」を選択する。*

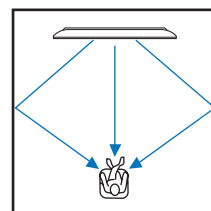
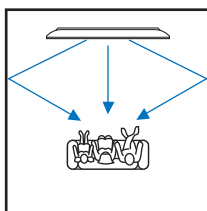
5 *Ⓖ◀／▶ キーを押して、設定する音声出力方法を選択する。*

6 *Ⓘ 設定キーを押して、設定を終了する。*

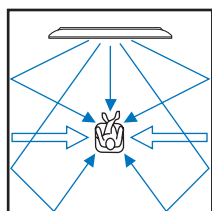
5.1ch 選択時

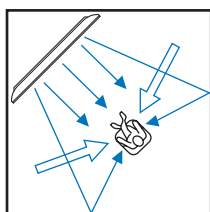
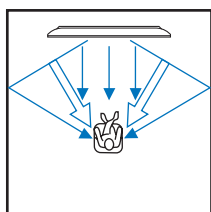
5 ビーム

フロント左／右、センター、サラウンド左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。5.1chのサラウンド効果を存分に楽しみたい場合に効果的です。

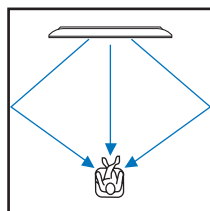
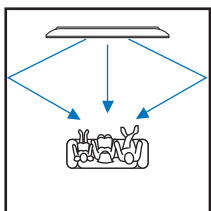
ステレオ＋3 ビーム

フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンド左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネル音声出力はフロント左／右チャンネルのビームを使用します。ライブDVDなどの鑑賞に最適です。

3 ビーム

フロント左／右、センターの各チャンネルからビーム音声を出力します。マルチチャンネルソースのサラウンド左／右チャンネル音声はフロント左／右チャンネルにミックスされます。ご家族で映画を見るときや、後方の壁に近い位置で試聴しているときに最適です。

7.1ch 選択時

5 ビーム プラス 2

フロント左／右、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネルはフロント左／右、サラウンドバック左／右チャンネルにミックスされます。7.1ch のサラウンド効果を存分に楽しみたい場合に効果的です。

ステレオ + 3 ビームプラス 2

フロント左／右のステレオ音声に加え、センター、サラウンドバック左／右の各チャンネルからビーム音声を出力します。サラウンド左／右チャンネル音声出力はフロント左／右ステレオ音声とサラウンドバック左／右チャンネルのビームを使用します。ライブ DVD などの鑑賞に最適です。

3 ビーム

フロント左／右、センターの各チャンネルからビーム音声を出力します。マルチチャンネルソースのサラウンド左／右、サラウンドバック左／右チャンネル音声はフロント左／右チャンネルにミックスされます。ご家族で映画を見るときや、後方の壁に近い位置で試聴しているときに最適です。

2 チャンネルソースをサラウンドで楽しむ

2 チャンネルソース（アナログソースや CD など）をデコードし、最大 7.1 チャンネルで再生できます。各デコーダーはそれぞれに特長があるため、デコーダーを切り替えることによってさまざまなサラウンド効果が楽しめます。

ヒント

・デコーダーの切替は、サラウンド再生（33 ページ）がオンのときに有効です。
・「チャンネル アウト」の設定（35 ページ）により、選択できるデコーダーは変化します。

Ⓜ デコーダーキーを繰り返し押す。

選択できるデコーダーとおすすめのソース

2ch → 5ch

デコーダー		おすすめのソース
PRO LOGIC（ドルビープロロジック）	―	すべてのソース
PL Ⅱ（ドルビープロロジックⅡ）	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6（DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

2ch → 7ch

デコーダー		おすすめのソース
PL Ⅱx（ドルビープロロジックⅡx）	Movie Music Game	映画 音楽 ゲーム
Neo:6（DTS Neo:6）	Cinema Music	映画 音楽

5.1 チャンネルソースを 7.1 チャンネルで再生する

5.1 チャンネルソースをデコードし、最大 7.1 チャンネルで再生できます。入力信号に応じて、以下のデコーダーが自動的に選択されます。「チャンネル　アウト」を「7.1ch」に設定してください（35 ページ）

5.1ch 入力ソース	デコーダー
PCM、AAC、ドルビーデジタル、ドルビーデジタル EX、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス	ドルビープロロジックⅡx Movie ／ Music
DTS デジタル、DTS ES matrix、DTS HD Master Audio、DTS HD High Resolution Audio	DTS ES matrix
DTS ES discrete	DTS ES discrete

ヒント

・ドルビープロロジックIIxデコーダーのMovieとMusicを切り替えるには、Ⓜデコーダーキーを繰り返し押してください。ドルビープロロジックⅡx Musicデコーダーに切り替えるにはPLⅡx Musicを、ドルビープロロジックⅡx Movieデコーダーに切り替えるにはPLⅡx Music以外を選択してください。

本機について
準備する
再生する
設定する
付録

FM 放送を聴く

以下の２種類の方法で FM 放送を受信できます。

ノーマルチューニングモード

放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして受信します。

プリセットチューニングモード

放送局をプリセット（登録）し、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

ヒント

・受信感度が最良になるように、FMアンテナの向きや位置を調節してください。

放送局を受信する（ノーマルチューニング）

1 *ⒹFM キーを押す。*

FM 受信モードに切り替わります。

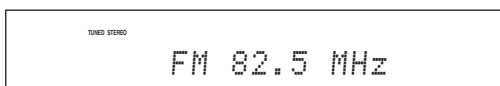
ご注意

・フロントパネルのINPUTキーでFM受信モードに切り替えた場合は、手順2に進む前にリモコンのⒹFMキーを押してください。これにより、手順2以降の操作ができるようになります。

2 *Ⓢ 選局 ∧ / ∨ キーを押す。*

放送局を受信すると、フロントパネルディスプレイの TUNED インジケーターが点灯します。放送局をステレオで受信している場合は、STEREO インジケーターも表示されます。

関連機能：「FM Mode」44 ページ

TUNED STEREO
FM 82.5 MHz

Ⓢ 選局 ∧ / ∨ キーの押し方に応じて、以下のように動作が変わります。

キーを１秒以上押し続けた場合（自動選局）

現在の周波数前後にある受信可能な放送局を自動的にサーチします。電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。サーチが始まったらキーから手を離してください。

キーを押してすぐに放した場合（手動選局）

周波数を 0.1 ずつ増減します。受信したい放送局の電波が弱く、自動選局ではうまく受信できない場合に使用します。

3 *周波数を直接指定して受信する場合は、Ⓝ 数字キーを押して、周波数を入力する。*

小数点は省略して入力してください。例えば、77.1MHz の放送局を受信する場合は「771」と入力してください。

ご注意

・プリセットチューニング中にⓃ数字キーを押すと、プリセット番号が選択されます。Ⓢ選局 ∧ / ∨ キーを押してノーマルチューニングモードに切り替えてから操作してください。

ヒント

・受信状態が悪く聴きづらい場合は、モノラルで受信すると良好な受信感度が得られます。オプションメニュー「FM Mode」で「Mono」を選択してください（44 ページ）。

放送局を登録して受信する（プリセットチューニング）

放送局は 40 局まで登録できます。「オートプリセット」または「マニュアルプリセット」のいずれかの方法で放送局を登録してください。

オートプリセットで登録する

電波の強い放送局を自動的に検出し、登録します。

1 *ⒹFM キーを押す。*

2 *Ⓘ オプションキーを押す。*

オプションメニュー(43 ページ)がフロントパネルディスプレイに表示されます。

3 *Ⓖ ▲ / ▼ キーで「Auto Preset」を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。*

3.Auto Preset

約 5 秒後に登録を開始します。

ヒント

- Ⓖ決定キーを押した後にⒼ▲／▼キーを押すと、オートプリセットを開始するプリセット番号を選択できます。
- 登録を中止したい場合は、Ⓘ戻るキーを押してください。

登録が完了すると、「Preset Complete」と表示されます。

4 *Ⓘ オプションキーを押して、オプションメニューを終了する。*

マニュアルプリセットで登録する

電波の弱い放送局を手動で登録します。

1 *放送局を受信する。*

2 *Ⓢ メモリーキーを押す。*

フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示され、しばらくすると登録先となるプリセット番号が表示されます。

ヒント

- Ⓢメモリーキーを２秒以上押し続けると、手順３～４を省略して、前回登録したプリセット番号の次に空いている番号に放送局を登録します。

3 *Ⓢ プリセット ⌃ / ⌄ キーを押して、登録先のプリセット番号を選択する。*

空のプリセット番号を選択すると「Empty」と表示されます。登録済みのプリセット番号を選択した場合は、登録されている周波数がプリセット番号の右側に表示されます。

MEMORY
P01:Empty

ヒント

- Ⓝ数字キーを押してプリセット番号を選択することもできます。

4 *Ⓢ メモリーキーを押す。*

放送局を登録します。登録が終わると、元の表示に戻ります。

ヒント

・Ⓘ戻るキーを押す（または約30秒間操作をしない）と、登録を中止できます。

登録した放送局を呼び出す（プリセットチューニング）

プリセットした放送局を呼び出します。ⒹFMキーを押してから、以下の手順を操作してください。

Ⓢプリセット ⌃ / ⌄ キーを押して、プリセット番号を選択する。

ヒント

・登録されていないプリセット番号はスキップされます。
・全てのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」と表示されます。
・プリセットチューニング中は、Ⓝ数字キーを押してプリセット番号を選択することもできます。
・ノーマルチューニング中にⓃ数字キーを押すと、周波数が入力されます。Ⓢ選局 ∧ / ∨ キーを押してプリセットチューニングモードに切り替えてから操作してください。

プリセット放送局の登録を解除する

プリセットした放送局の登録を解除します。

1 ⒹFM キーを押す。

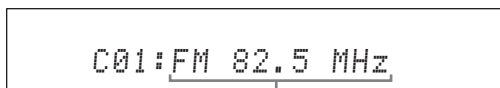
FM 受信モードに切り替わります。

2 Ⓘ オプションキーを押す。

オプションメニュー(43 ページ)がフロントパネルディスプレイに表示されます。

3 Ⓖ ▲ / ▼ キーで「Clear Preset」を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

プリセットした放送局が表示されます。

```
C01:FM 82.5 MHz
```

登録を解除するプリセット放送局

ヒント

・登録の解除を中止したい場合は、Ⓘ戻るキーを押してください。

4 Ⓖ ▲ / ▼ キーで、登録を解除する放送局を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。

プリセット放送局の登録を解除します。登録を解除すると、「Cleared」と表示されます。複数のプリセット放送局の登録を解除するには、手順４を繰り返し操作してください。

5 Ⓘ オプションキーを押して、オプションメニューを終了する。

iPod ／ iPhone を再生する

別売りの iPod 用ワイヤレストランスミッター（YIT-W10）に iPod ／ iPhone を接続すれば、iPod ／ iPhone をリモコンのように使いながらワイヤレスで再生できます。

iPod ／ iPhone と YIT-W10 の接続：YIT-W10 に付属の取扱説明書参照

関連機能：「iPod パワー連動」55 ページ

ヒント

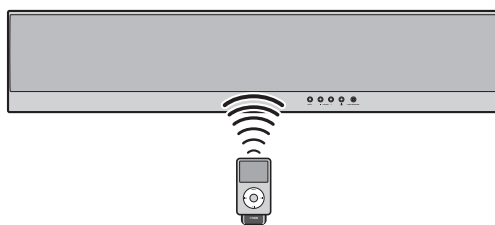
・本機は以下のiPod／iPhoneに対応しています。

- iPod第5世代
- iPod classic
- iPod touch
- iPod nano
- iPhone
- iPhone 3G
- iPhone 3GS

(2009年8月現在)

ご注意

・第4世代以前のiPod、Dockコネクターのないi Pod、iPod photo、iPod miniには対応していません。
・YIT-W10を使用してiPod/iPhoneを再生している場合は自動設定を実行できません。自動設定を実行するには再生を停止し、iPod/iPhoneをYIT-W10から取り外してください。

iPod ／ iPhone および YIT-W10 を接続し、再生を開始する。

ヒント

・iPod／iPhoneの再生を開始すると、本機は自動的に以下のように動作します。
- 本機の電源がオンの場合は、入力ソースがiPodに切り替わります。
- 本機の電源がスタンバイの場合はオンになり、入力ソースがiPodに切り替わります。

・ⒹiPodキーを押して入力ソースを切り替えることもできます。

・iPod／iPhoneで音量を操作して、本機の音量を調節することもできます。

・以下の場合、本機の電源は自動的にスタンバイになります。
- iPod／iPhoneをYIT-W10から取り外した
- iPod／iPhoneをスリープ状態にした

便利な機能を使用する

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

テレビを視聴中、以下のような場合に、過大な音量の差を補正して聞きやすくします。

・チャンネルを切り替えた

・番組からCMへ変わった

・番組が終わって次の番組が始まった

初期設定ではオンに設定されています。

Ⓜ *ユニボリュームキーを押す。*

フロントパネルディスプレイに
UNIVOLUME インジケーター
（13 ページ）が点灯します。

ヒント

・ユニボリュームをオフにするには、もう一度Ⓜユニボリュームキーを押してください。
・音楽ソースを再生するときは、オフにすることをおすすめします。

HDMI コントロール機能を使用する

HDMI を使用したコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI で接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

電源のオン／スタンバイ（テレビ連動）

音量の調節

音声を出力する機器の切り替え
（テレビ⇔本機）

ヒント

・HDMIを使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、上記の機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
・HDMIを使ったコントロール機能に対応しているブルーレイレコーダー/DVDレコーダーなどをHDMIで接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
・テレビおよびブルーレイレコーダー、DVDレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
・接続可能な機器に関する最新の情報は下記WEBサイトをご覧ください。
http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

HDMI コントロール機能を使うには、HDMI コントロール機能の設定、および HDMI 機器のテレビへの登録が必要です。

ヒント

・HDMIコントロール機能を設定するだけで本機能を使用できるHDMI機器もあります。この場合、HDMI機器のテレビへの登録は必要ありません。

HDMI コントロール機能の設定

1 *HDMI で接続しているすべての機器の電源をオンにする。*

2 *HDMI で接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。*

本機側では、「HDMI コントロール」が「オン」に設定されていることを確認します（55 ページ）。
外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 *テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。*

HDMI 機器のテレビへの登録

1 *テレビの入力を、本機に切り替える。*

2 *本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応しているブルーレイレコーダーまたは DVD レコーダーの電源をオンにする。*

3 *本機の入力をブルーレイレコーダーまたは DVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。*

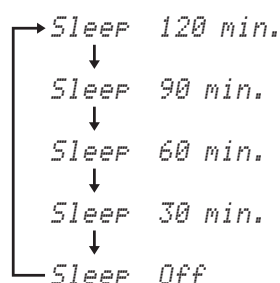
ご注意

- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。テレビの電源をオン/オフしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
  - 「HDMIコントロール」（55 ページ）が「オン」に設定されている
  - テレビ側の設定でHDMIコントロール機能が有効になっている
  - 接続方法や接続機器を変更した場合は、手順 1～3を再度操作してください。

スリープタイマーを使用する

一定時間経過後に本機の電源を自動的にスタンバイにします。

1 *Ⓡ スリープキーを繰り返し押す。*

スタンバイ状態になるまでの時間が切り替わります。フロントパネルディスプレイに SLEEP インジケーター（13 ページ）が点滅します。

2 *しばらくの間操作をしない。*

SLEEP インジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。

ご注意

- 電源をスタンバイにすると、スリープタイマーは解除されます。

入力ソースごとの設定を変更する（オプションメニュー）

使用頻度の高い設定項目を、入力ソース（TV／HDMI 1～4／AUX 1、2／FM）ごとに設定します。入力ソースにより、設定できる項目は異なります。

1 *Ⓓ 入力選択キーを押す。*

設定を変更する入力ソースを選択します。

本機について 準備する 再生する 設定する 付録

2 Ⓘ *オプションキーを押す。*

オプションメニュー(43 ページ)がフロントパネルディスプレイに表示されます。

```
1.Volume Trim
```

3 Ⓖ ▲ /▼ *キーで項目を選択し、Ⓖ 決定キーを押す。*

4 Ⓖ ◀ / ▶ *キーを押して、設定値を変更する。*

5 Ⓘ *オプションキーを押して、オプションメニューを終了する。*

オプションメニュー項目一覧

各入力ソースには、以下のようなメニューアイテムがあります。

入力ソース	メニュー項目			
HDMI 1～4	Volume Trim	Decoder Mode		
TV	Volume Trim	Decoder Mode		
AUX 1～2	Volume Trim	Decoder Mode		
FM	Volume Trim	FM Mode	Auto Preset	Clear Preset
iPod	Volume Trim			

各メニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力ソースに設定が反映されます。

ヒント

・「*」は初期設定を表しています。

各端子の入力レベルを調節する (Volume Trim)

端子ごとに入力レベルを設定して、ソースにより異なる音量のばらつきを調節します。

可変範囲：－ 6.0dB ～ 0.0dB *～ ＋ 6.0dB

再生する音声信号を切り替える (Decoder Mode)

再生する音声信号を選択します。

選択項目：AUTO *／ DTS ／ AAC

AUTO：本機が自動的に選択して再生します。通常はこのモードを選択してください。

DTS：DTS 信号を再生します。DTS 信号を入力している場合、「AUTO」よりも安定して再生できます。

AAC：AAC 信号を再生します。AAC 信号を入力している場合、「AUTO」よりも安定して再生できます。

FM 放送の受信方法を選択する (FM Mode)

FM 放送をステレオで受信するか、モノラルで受信するかを選択します。

選択項目：Stereo *、Mono

Stereo：ステレオで受信します。

Mono：モノラルで受信します。ステレオよりも良好な受信感度が得られます。

自動的に FM 放送を登録する (Auto Preset)

電波の強い放送局を自動的に検出し、登録（プリセット）します（39 ページ）。

Ⓖ
Ⓘ
Ⓣ

プリセット放送局の登録を解除する（Clear Preset）

プリセットした放送局の登録を解除します（40ページ）。

入力信号の各種情報を表示する

入力信号のサンプリング周波数、および映像の種類、解像度の情報を、入力ソースごとにフロントパネルディスプレイに表示します。

1 *情報を表示したい入力ソース（TV、AUX1～2、HDMI1～4）を選択し、Ⓣ表示キーを押す。*

```
Audio Sampling
```

2 *Ⓣ表示キーを繰り返し押して、表示する情報を切り替える。*

サンプリング周波数（Audio Sampling）

32／44.1／48／64／88.2／96kHz

映像信号（Video Signal In）

入力信号の種類

HDMI／DVI／Analog（アナログ）

入力解像度

480i／480p／720p／1080i／1080p

画面表示言語を切り替える

テレビ画面に表示されるメニューなどの表示言語を切り替えます。

1 *Ⓘ設定キーを長押しする。*

```
3) LANGUAGE SETUP
→ JAPANESE
  ENGLISH

[▲]／[▼]：移動
[決定]：決定
```

2 *Ⓖ▲/▼キーで言語を選択し、Ⓖ決定キーを押す。*

選択項目：JAPANESE（日本語）、ENGLISH（英語）
初期設定：JAPANESE

設定する

本機を手動で設定する

手動による本機の設定方法を中心に説明します。

メニュー一覧

メニュー	サブメニュー	内容	ページ
メモリー	メモリー呼び出し	設定内容を呼び出します。	29
	メモリー保存	設定内容を保存します。	28
自動設定	ビーム調整＋音質調整	ビームと音質を自動的に設定します。	24
	ビーム調整	ビームを自動的に設定します。	24
	音質調整	音質を自動的に設定します。	24
詳細設定	設置視聴環境	設置状態やリスニング環境を設定します。	47
	ビーム調整	ビームの向きと距離を設定します。	48
	Lch ／ Rch 位置調整	左右の音のバランスを調節します。	49
サウンド設定	トーンコントロール	高音域と低音域の出力レベルを調節します。	50
	サブウーファー設定	サブウーファーに関する設定をします。	50
	映像と音声のタイミング調整	音声出力のタイミングが映像と一致するよう調節します。	51
	ダイナミックレンジコントロール	ダイナミックレンジの設定をします。	51
	BASS EXTENSION	低音を豊かに再生します。	52
	MUSIC ENHANCER	圧縮音声を豊かに再生します。	52
	チャンネルレベル	各チャンネルの音量を調節します。	52
サウンド出力設定	ビーム出力設定	ビームの出力方法を切り替えます。	52
	音声出力設定	音声出力を切り替えます。	52
入力設定	入力端子設定	音声入力端子の設定を変更します。	53
	入力端子名変更	入力ソースの表示名称を変更します。	54
	HDMI 設定	HDMI に関する設定をします。	55
	ワイヤレス機器設定	ワイヤレス接続に関する設定をします。	55
表示設定	本体表示設定	フロントパネルディスプレイ表示を設定します。	56
	メニュー画面設定	メニュー画面に関する設定をします。	56
	LANGUAGE SETUP	メニュー画面の表示言語を設定します。	56

メニューの操作手順

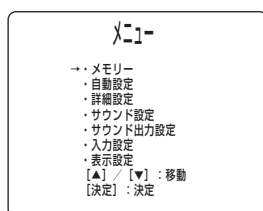
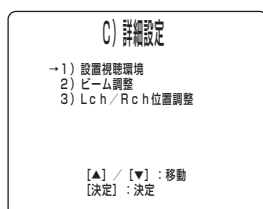
1 Ⓘ設定キーを押す。

```
メニュー
→・メモリー
  ・自動設定
  ・詳細設定
  ・サウンド設定
  ・サウンド出力設定
  ・入力設定
  ・表示設定
  [▲]／[▼]：移動
  [決定]：決定
```

2 Ⓖ▲／▼キーで項目を選択し、Ⓖ決定キーを押す。

```
C）詳細設定
→1）設置視聴環境
  2）ビーム調整
  3）Lch／Rch位置調整

  [▲]／[▼]：移動
  [決定]：決定
```

ヒント

・1つ前の表示に戻りたい場合は、Ⓘ戻るキーを押してください。

3 Ⓖ▲／▼／◀／▶キーとⒼ決定キーを押して、項目の選択や決定、設定の変更をする。

ヒント

・「＊」は初期設定を表しています。

ご注意

・設定中にⒹ入力選択キーを押すと、メニュー画面が消えます。

4 Ⓘ設定キーを押して、設定を終了する。

設置環境やビームを設定する

自動設定（23 ページ）の内容を手動で調節します。自動設定の値を生かしながらビームを微調節するには、「ビーム調整」、および「Lch ／ Rch 位置調整」で設定を変更してください。

リスニング環境を設定する

（メニュー→詳細設定→設置視聴環境）

本機の設置状態や視聴位置を設定します。

ヒント

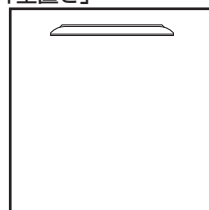
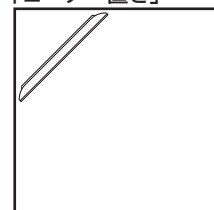
・本設定を変更すると、「ビーム調整」も自動的に適切な値へ変更されます。

ご注意

・本設定を変更すると、自動設定のビームデータは失われます。

1 設置視聴環境 1 ／ 3 の「本体設置位置」を設定する。

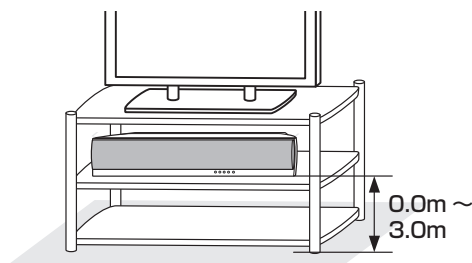
本機の設置場所を設定します。

選択項目：壁置き＊、コーナー置き

ご注意

・設定を変更すると、「ビームモード」の設定も自動的に変更されます（35 ページ）。

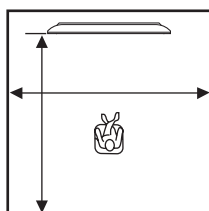
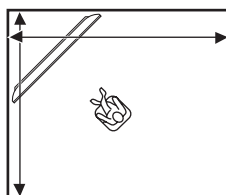
2 設置視聴環境 1 ／ 3 の「本体の高さ」を設定する。

床から本機までの高さを設定します。

可変範囲：0.0m ～ 1.0m* ～ 3.0m

3 設置視聴環境 2 ／ 3 を設定する。

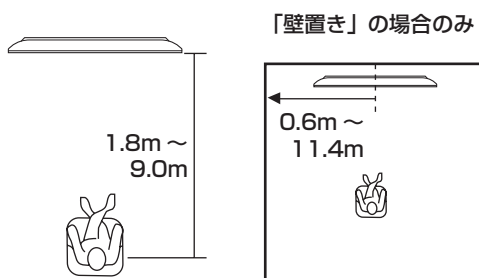
リスニングルームの長さと幅を設定します。

可変範囲：2.0m ～ 12.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合は、リスニングルームの幅と本機から後方までの長さを設定します。

「コーナー置き」に設定した場合は、視聴位置左側前方の壁の長さと、右側前方の壁の長さを設定します。

4 設置視聴環境 3 ／ 3 を設定する。

本機前面から視聴位置までの距離や、本機の中心から左側の壁までの距離を設定します。

本機から視聴位置までの可変範囲：
1.8m ～ 9.0m
本機から左側の壁までの可変範囲：
0.6m ～ 11.4m

「壁置き」の場合のみ

ビームの向きと距離を設定する

（メニュー→詳細設定→ビーム調整）

ビームの向きと距離を設定します。

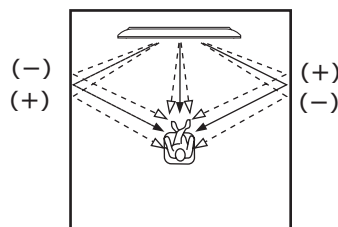
ヒント

- 自動設定（23 ページ）または「設置視聴環境」の設定により、各項目は自動的に設定されています（「焦点距離」の「センター」は除く）。
- 「ビームモード」（35 ページ）の設定により、設定できないチャンネルは「——」と表示されます。
- YIT-W10に接続したiPod/iPhoneを再生中に「ビーム調整」の設定を変更する場合、SWK-W10に接続したサブウーファーから、iPod/iPhoneの音声が出力されます。ビーム調整中はiPod/iPhoneを停止させることをおすすめします。

1 「水平角度」を設定する。

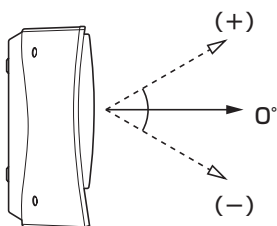
テスト音を聴きながら、ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音声出力は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。

可変範囲：左 90 度～右 90 度

2 「垂直角度」を設定する。

テスト音を聴きながら、ビームの垂直方向の角度をチャンネルごとに調節します。

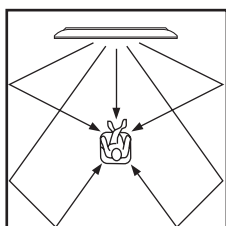
下方向に調節すると音が出力される方向は下方向へ移動し、上方向に調節すると上方向へ移動します。

可変範囲：− 45 度～+ 45 度

3 「ビーム経路長」を設定する。

各チャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返って視聴位置に到達するまでの距離を設定します。この設定により、音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

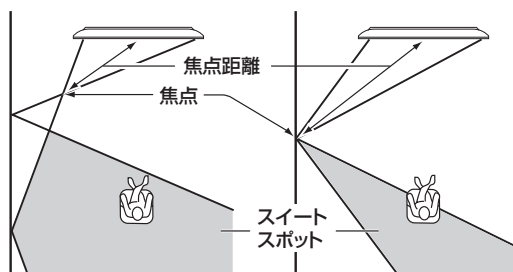
ご注意

・「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。

可変範囲：0.3m ～ 24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。

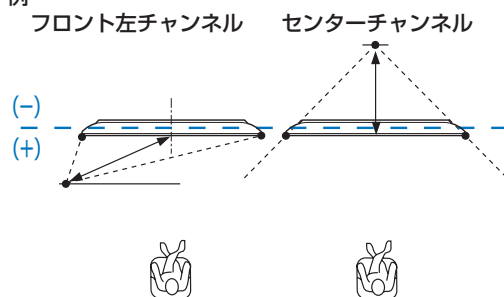
4 「焦点距離」を設定する。

音がよくきこえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。

本機は、下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく（−（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく（+（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。

センターチャンネルについては、初期設定（− 0.5m）での使用をおすすめします。

フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右
可変範囲：− 1.0m ～+ 13.0m

センター
可変範囲：− 1.0m ～− 0.5m *～+ 13.0m

例

ヒント

・自動設定（23 ページ）および「設置視聴環境」（47 ページ）の設定では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

フロント左／右チャンネルのバランスを調節する

（メニュー→詳細設定→ Lch ／ Rch 位置調整）

フロント左／右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。

左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合に調節してください。

「ビームモード」(35 ページ)を「5 ビーム プラス 2」または「5 ビーム」、「3 ビーム」に設定しているときに調節できます。

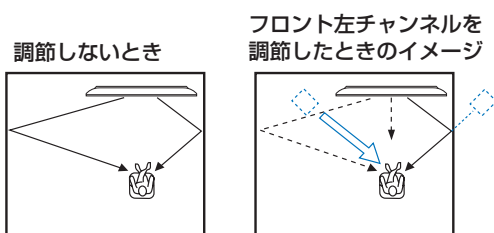
「オン」を選択すると、音の方向を調節できます。

ヒント

・各チャンネルの音量レベルは、「チャンネルレベル」（52 ページ）で調節できます。

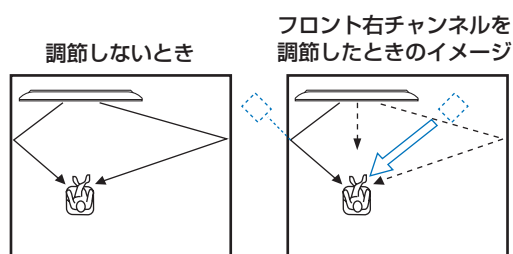
選択項目：オフ*、オン

1 「左」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

可変範囲：0% * ～ 95%

2 「右」を設定する。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

可変範囲：0%*～ 95%

音声を設定する

音色を調節する

（メニュー→サウンド設定→トーンコントロール）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

高音

可変範囲：－ 10.0dB ～ 0dB *～
＋ 10.0dB

低音

可変範囲：－ 10.0dB ～ 0dB *～
＋ 10.0dB

サブウーファーを設定する

（メニュー→サウンド設定→サブウーファー設定）

サブウーファーに関する設定をします。

バス出力

低音成分の出力先を設定します。

可変範囲：サブウーファー、フロントまたは
自動*

「サブウーファー」：ケーブルを使用してサブウーファーを接続している場合に選択します。低音成分はサブウーファーから出力されます。

「フロントまたは自動」：サブウーファーを接続していない、またはワイヤレスでサブウーファーを接続している場合に選択します。サブウーファーを接続していない場合は、低音成分はフロント右／左チャンネルから出力されます。サブウーファーと本機のワイヤレス接続が確立している場合は、サブウーファーから出力されます。接続が遮断された場合は、自動的にフロント右／左チャンネル出力に切り替わります。

クロスオーバー

「バス出力」を「サブウーファー」に設定しているときに、サブウーファーに出力する低音成分の周波数の上限を設定します。

選択項目：80Hz、100Hz、120Hz *

LFE レベル

ドルビーデジタル、DTS、および AAC 信号に含まれている LFE（低域効果音）の音量を調節します。

可変範囲：－ 20dB ～ 0dB *

距離

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

可変範囲：0.3m ～ 3.0m *～ 15.0m

映像に合わせて音声の出力タイミングを調節する

（メニュー→サウンド設定→映像と音声のタイミング調整）

音声出力のタイミングが映像と一致するように補正します。

AUTO LIP SYNC

リップシンクの自動補正機能に対応しているテレビと本機を HDMI で接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。

選択項目：オン*、オフ

「オン」：テレビが自動補正機能に対応している場合に選択します。出力タイミングが自動的に調節されます。

「オフ」：テレビが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選択します。「HDMI」で遅延時間を手動で調節できます。

TV

テレビ端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

可変範囲：0msec *～ 400msec

HDMI

HDMI 入力端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。「AUTO LIP SYNC」が「オフ」のときに有効になります。

可変範囲：0msec ～ 30msec *～ 400msec

AUX 1 ／ AUX 2

AUX 1 ／ AUX 2端子から入力した音声信号の出力遅延時間を調節します。

可変範囲：0msec ～ 30msec *～ 400msec

ダイナミックレンジ圧縮を設定する

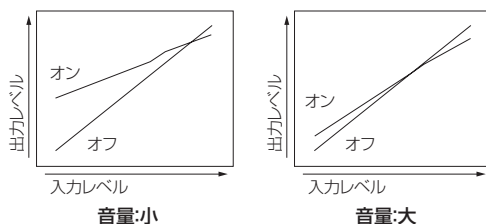
（メニュー→サウンド設定→ DRC：ダイナミックレンジコントロール）

音量を下げて再生したり、夜間に再生したりするときのダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を設定します。

Adaptive DRC

本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。「オン」に設定すると、ダイナミックレンジは以下のように調節されます。
音量を小さくしたとき：
ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。
音量を大きくしたとき：
ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、ソースの持つ音量のまま再生します。

音量:小

音量:大

選択項目：オン*、オフ

「オン」：ダイナミックレンジを調節します。
「オフ」：ダイナミックレンジを調節しません。

ヒント

- 「オフ」に設定すると、「Dolby ／ DTS DRC」が自動的に「最大」に設定されます。
- ユニボリュームをオンにすると、本設定は無効になります。

Dolby ／ DTS DRC

ドルビーデジタル、および DTS 再生時のダイナミックレンジを設定します。

選択項目：最小／自動、標準、最大*

最小／自動：（最小）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。
（自動）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
標準：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
最大：入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

ヒント

・「最大」以外に設定すると、「Adaptive DRC」が自動的に「オフ」に設定されます。

低音域を豊かに再生する

（メニュー→サウンド設定→BASS EXTENSION）

低音域を効果的に再生します。機能を有効にしているときはフロントパネルディスプレイに BASS EXT インジケーター（13 ページ）が点灯します。

選択項目：オフ、中*、大

「オフ」：入力信号をそのまま再生します。
「中」：低音域を適度に補完して再生します。
「大」：低音域を強めに再生します。

圧縮音声を豊かに再生する

（メニュー→サウンド設定→ MUSIC ENHANCER）

圧縮音声フォーマットの低音域と高音域を強調・拡張して、ダイナミックに再生します。機能を有効にしているときはフロントパネルディスプレイに ENHANCER インジケーター（13 ページ）が点灯します。

AUX 1 ／ AUX 2

AUX 1 ／ AUX 2の音声をダイナミックに再生します。

選択項目：オフ*、オン

iPod

iPod ／ iPhone の音声をダイナミックに再生します。

選択項目：オフ、オン*

チャンネルごとに音量を調節する

（メニュー→サウンド設定→チャンネルレベル）

チャンネルごとに出力されるテスト音を聞きながら、チャンネル間の音量バランスを調節します。

フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右、サブウーファー、サラウンドバック左 / 右
可変範囲：－ 10.0dB ～＋ 10.0dB

ご注意

・「チャンネル　アウト」の設定により、調節できるチャンネルは変化します。
・「音声出力」を「スピーカー」に設定している場合、サラウンドバック左／右は調節できません。

音声出力を設定する

ビームの出力方法を設定する

（メニュー→サウンド出力設定→ビーム出力設定）

音声出力チャンネル数（5ch ／ 7ch）や音声出力方法を切り替えます。
詳細：「サラウンドの音声出力方法を切り替える」35 ページ

音声出力を切り替える

（メニュー→サウンド出力設定→音出力設定）

音声信号を本機のスピーカーから出力するか、プリアウト端子から出力するかを設定します。

音声出力

音声信号の出力先を設定します。すべてのチャンネル音声出力が一括して切り替わります。

選択項目：スピーカー*、プリアウト

「スピーカー」：本機から出力します。
「プリアウト」：本機のプリアウト端子から出力します。以下の「バスアウト」から「LFE レベル」で外部スピーカーや音声出力を設定してください。

ヒント

・「バスアウト」から「LFE レベル」までの設定は、音声信号をプリアウト端子から出力する場合の設定です。

バスアウト

低音成分の出力先を設定します。「バスアウト」以降は、音声信号をプリアウト端子から出力する場合の設定です。

選択項目：サブウーファー、フロント*

「サブウーファー」：サブウーファーから出力します。
「フロント」：外部フロント左 / 右スピーカーから出力します。

フロント　スピーカーサイズ

外部フロントスピーカーの大きさを設定します。

選択項目：小、大*

「小」：スピーカーが小さい場合（ウーファー口径 16cm 未満）に選択します。フロント左 / 右チャンネルの低音域成分はサブウーファーから出力されます。
「大」：スピーカーが大きい場合（ウーファー口径 16cm 以上）に選択します。

センター　スピーカーサイズ

センタースピーカーの大きさを設定します。

選択項目：なし、小*

「なし」：センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの信号はフロント左 / 右スピーカーに振り分けられます。
「小」：センタースピーカーを接続している場合に選択します。センターチャンネルの低音域成分はサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）から出力されます。

プリアウトボリューム

プリアウト端子の出力レベルを調節します。

可変範囲：－ 30.0dB ～－ 18.0dB *～ 0.0dB

LFE　レベル

ドルビーデジタル、DTS、および AAC 信号に含まれている LFE（低域効果音）の音量を調節します。

可変範囲：－ 20dB ～ 0dB *

入力の設定を変更する

端子の割り当てを変更する

（メニュー→入力設定→入力端子設定）

音声入力端子の割り当てを変更します。各端子に設定した割り当てに従って、入力選択時の音声が決定されます。画面上カッコ内の表示は初期設定です。
関連機能：「音声選択」55 ページ

オーディオ 1

オーディオ入力テレビ端子の設定を変更します。

選択項目：TV *、AUX1、AUX2、HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4

ご注意

・「オーディオ2」ですでに選択されている入力は表示されません。「オーディオ2」で選択されている入力を設定したい場合は、「オーディオ2」で別の入力を選択してから本設定を変更してください。

オーディオ 2

オーディオ入力 AUX 1 端子の設定を変更します。

選択項目：AUX1 *、AUX2、HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、TV

ご注意

・「オーディオ1」ですでに選択されている入力は表示されません。「オーディオ1」で選択されている入力を設定したい場合は、「オーディオ1」で別の入力を選択してから本設定を変更してください。

オプティカル 1

デジタル入力テレビ端子の設定を変更します。

選択項目：TV *、AUX1、AUX2、HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4

ご注意

・「オプティカル2」または「コアキシャル」ですでに選択されている入力は表示されません。これらの設定で選択されている入力を設定したい場合は、これらの設定で別の入力を選択してから本設定を変更してください。

オプティカル2

デジタル入力 AUX 1端子の設定を変更します。

選択項目：AUX1 *、AUX2、HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、TV

ご注意

・「オプティカル1」または「コアキシャル」ですでに選択されている入力は表示されません。これらの設定で選択されている入力を設定したい場合は、これらの設定で別の入力を選択してから本設定を変更してください。

コアキシャル

デジタル入力 AUX 2端子の設定を変更します。

選択項目：AUX2 *、HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、TV、AUX1

ご注意

・「オプティカル1」または「オプティカル2」ですでに選択されている入力は表示されません。これらの設定で選択されている入力を設定したい場合は、これらの設定で別の入力を選択してから本設定を変更してください。

入力ソース名を変更する

(メニュー→入力設定→入力端子名変更)

入力選択時に表示される入力ソース名を変更します。選択項目にある入力ソース名から選ぶか、任意の名称を入力してください。

選択項目から選ぶ場合

1 **Ⓖ▲/▼キーを押して、名称を変更する。入力ソースを選択する。**

2 **Ⓖ◀/▶キーを押して、入力ソース名を選択する。**

選択項目：TV、Blu-ray、DVD、HDDVD、STB、Satellite、Game

3 **設定を終了するには、Ⓘ戻るキーを押す。**

任意の名称を入力する場合

1 **Ⓖ▲/▼キーを押して、名称を変更する。入力ソースを選択する。**

2 **Ⓖ決定キーを押す。**

変更後の名称表示の上に、文字位置を示す「▼」が表示されます。

3 **Ⓖ◀/▶キーを押して、変更する文字位置を選択する。**

4 **Ⓖ▲/▼キーを押して、文字を選択する。**

5 **手順3～4を繰り返す。**

6 **入力が終わったらⒼ決定キーを押す。**

7 **設定を終了するには、Ⓘ戻るキーを押す。**

ヒント

・表示できる文字は、A～Z、0～9、a～z、記号（！、？、<、>など）です。

HDMIに関する設定をする

（メニュー→入力設定→HDMI設定）

HDMI信号やHDMIコントロール機能に関する設定をします。

サポート音声

HDMI入力音声信号を再生する機器を設定します。「HDMIコントロール」が「オフ」のときに機能が有効になります。

ヒント

・本機のHDMI入力端子に入力したHDMI映像信号は、常に本機のHDMI出力端子へ出力されます。

選択項目：（モデル名）*、それ以外

「（モデル名）」：入力された音声信号を本機で再生します。
「それ以外」：HDMI出力端子に接続した機器で再生します。

音声選択

映像信号はHDMI端子から、音声信号はオーディオ端子またはデジタル端子から入力して再生したい場合に、HDMI音声信号のオン／オフを切り替えます。「入力端子設定」で音声端子の割り当てを「HDMI（1～4）」に設定し、「音声選択」を「オフ」に設定すると、HDMI端子からの映像と「HDMI（1～4）」に割り当てられた音声端子からの音声を再生します。

選択項目：オフ、オン*

HDMIコントロール

HDMIコントロール機能（42ページ）のオン／オフを切り替えます。

選択項目：オフ、オン*

「オフ」：コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
「オン」：コントロール機能を有効にします。

ワイヤレス接続機器の設定を変更する

（メニュー→入力設定→ワイヤレス機器設定）

ワイヤレス接続したiPod／iPhoneやサブウーファーの設定をします。

ワイヤレス機器アクセス

本機とワイヤレス機器（YIT-W10、SWK-W10）間のワイヤレス通信のオン／オフを切り替えます。

選択項目：はい*、いいえ

「はい」：ワイヤレスで通信します。
「いいえ」：ワイヤレスで通信しません。

ヒント

・「いいえ」に設定すると、「iPodパワー連動」が自動的に「オフ」に設定されます。

iPodパワー連動

本機の電源オン／スタンバイと、iPod／iPhoneの電源オン／オフを連動させせます。

選択項目：オフ、オン*

「オフ」：電源を連動させません。本機の待機時消費電力を低減できます。
「オン」：電源を連動させます。

グループID

AirWired対応のヤマハ製品をワイヤレス接続するため、IDを使用してグループ化します。本機およびYIT-W10、SWK-W10を接続するには、すべての機器のグループIDが一致するように設定してください。

選択項目：A1*、A2、A3、B1、B2、B3

ヒント

・YIT-W10のグループセレクト番号1～3に相当する本機のグループIDはA1～A3です。

表示の設定を変更する

フロントパネルディスプレイ表示を設定する

(メニュー→表示設定→本体表示設定)

フロントパネルディスプレイに関する設定を変更します。

操作時の明るさ

本体／リモコンキー操作時のフロントパネルディスプレイの明るさを調整します。

選択項目：－２、－１、オフ*

非操作時の明るさ

「操作時の明るさ」の設定値を基準として、通常時（本体／リモコンキー非操作時）のフロントパネルディスプレイの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目：非表示、－３、－２、－１、オフ*

メニュー画面の設定を変更する

(メニュー→表示設定→メニュー画面設定)

本機のメニュー画面に関する設定を変更します。

上下位置

メニューを表示する位置を調節します。－（マイナス）方向にすると表示位置が上に移動し、＋（プラス）方向にすると下に移動します。

選択項目：－５～±０*＋５

背景色

壁紙の色を設定します。

選択項目：ブルー*、グレー、ブラック、パープル、レッド

メニュー表示言語を変更する

(メニュー→表示設定→ LANGUAGE SETUP)

メニュー画面の表示言語を設定します。

選択項目：JAPANESE*、ENGLISH

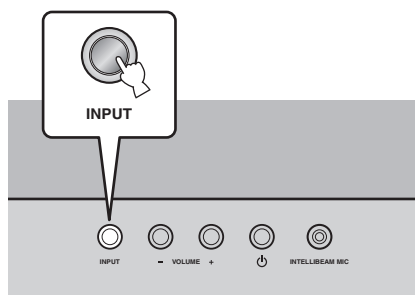
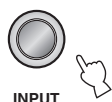
「JAPANESE」：日本語で表示します。
「ENGLISH」：英語で表示します。

拡張メニューを設定する

各種設定を保護したり、工場出荷状態に戻したりします。

1 Ⓒ電源キーを押して、本機の電源をスタンバイにする。

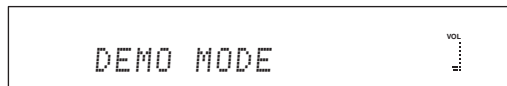
2 本体のINPUTキーを押しながら、リモコンのⒸ電源キーを押して電源をオンにする。

フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されます。

3 INPUTキーをはなす。

4 Ⓘ設定キーを押す。

5 Ⓖ▲/▼キーで、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、Ⓖ決定キーを押す。

表示例：「DEMO MODE」を選んだ場合

DEMO MODE

ヒント

・1つ前の表示に戻りたい場合は、Ⓘ戻るキーを押してください。

6 Ⓖ◀/▶キーを押して、設定を変更する。

7 Ⓒ電源キーを押して、電源をスタンバイにする。

再度Ⓒ電源キーを押して電源を入れると、設定されます。

電源を入れたときの音量を固定する（TURN ON VOLUME）

本機の電源をオンにしたときの音量を、常に指定した値になるように設定します。

調整範囲：OFF *、01 ～ 99、MAX（最大）

音量最大値を設定する（MAX VOLUME SET）

本機の音量を、指定した値より大きくできないように設定します。

調整範囲：01 ～ 99、MAX *（最大）

フロントパネルのINPUTキー操作を無効にする（PANEL INP. KEY）

フロントパネルのINPUTキーを押しても、入力が変わらないようにします。操作を無効にするには、「P.INPUT:OFF」を選択してください。

選択項目：P.INPUT:ON *、P.INPUT:OFF

フロントパネルキー操作を無効にする（F.PANEL KEY）

拡張メニュー以外の操作をフロントパネルキーでできないようにします。操作を無効にするには、「F.PANEL:OFF」を選択してください。

選択項目：F.PANEL:ON *、F.PANEL:OFF

入力選択キー操作で本機の電源をオンにする（R.INPUT POWER）

本機の電源がオフのとき、リモコンの入力選択キーを押すと本機の電源がオンになるように設定します。電源をオンにするには、「R.INPUT PW: ON」を選択してください。

選択項目：R.INPUT PW: OFF *、R.INPUT PW: ON

電源をオンにしたときにスタンバイ以前の状態にする（AC ON STANDBY）

本機への電源供給が一時的に遮断（コンセントを抜いた、または停電など）されたあと、電源供給が復帰したときに本機の電源をスタンバイにします。電源をスタンバイにするには、「AC STANDBY:ON」を選択してください。

選択項目：AC STANDBY: OFF *、AC STANDBY: ON

メニューの設定内容を保護する（MEMORY PROTECT）

メモリー保存した設定の内容を変更できないようにします。内容を保護するには、「PROTECT: ON」を選択してください。

選択項目：PROTECT: OFF *、PROTECT: ON

デモモードで再生する（DEMO MODE）

ビーム化された音声を 1 チャンネルで出力し、水平に動作（スイープ）させます。これにより、本機からビームがどのように出力されているか体感できます。デモモードで再生するには、「BEAM DEMO: ON」を選択してください。

調整範囲：BEAM DEMO: OFF *、BEAM DEMO: ON

音声をスイープさせるには

電源をスタンバイにしてから再度オンにすると、フロントパネルディスプレイに「DEMO」と表示されます。入力音声を再生し、Ⓔ切キーを押します。

スイープを停止させるには

もう一度 Ⓔ 切キーを押します。

手動でビームの角度を調節するには

スイープが停止しているときに Ⓕ サラウンドキー／ステレオキーを押します。

設定した内容を初期化する（FACTORY PRESET）

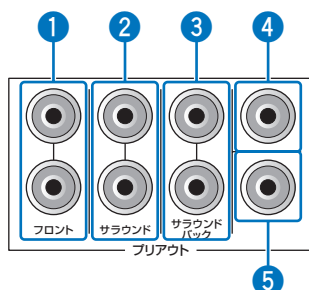
各種設定をすべて工場出荷状態に戻します。工場出荷状態に戻すには、「PRST: RESET」を選択してください。

調整範囲：PRST:CANCEL *、PRST: RESET

外部パワーアンプを使用して再生する

外部パワーアンプをプリアウト端子に接続して使用できます。「音声出力」（52 ページ）を「プリアウト」に設定し、「プリアウト　バスマネージメント」でプリアウトの設定をしてください。

関連機能：「サラウンドの音声出力方法を切り替える」35 ページ

設定：「音出力設定」52 ページ

❶ フロントプリアウト端子
フロント左／右チャンネルの信号を出力します。

❷ サラウンドプリアウト端子
サラウンド左／右チャンネルの信号を出力します。

❸ サラウンドバックプリアウト端子
サラウンドバック左／右チャンネルの信号を出力します。

❹ センタープリアウト端子
センターチャンネルの信号を出力します。

❺ サブウーファープリアウト端子
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。

ご注意

・外部パワーアンプを使用して再生している場合、以下の機能は無効になります。
- 自動設定（23 ページ）
- シネマDSP（33 ページ）
- ユニボリューム（42 ページ）
- MUSIC ENHANCER（52 ページ）
- BASS EXTENSION（52 ページ）
- Adaptive DRC（51 ページ）

本機のリモコンで外部機器を操作する

リモコンコード（60 ページ）を設定すると、本機のリモコンで外部機器を操作できます。Ⓓ 入力選択キーを押して外部機器を選択してから操作してください。以下は、操作で使用できるキーです。

Ⓑ ⏻（TV）キー
テレビの電源オン／スタンバイを切り替えます。

Ⓑ ⏻（AV）キー
外部機器の電源オン／スタンバイを切り替えます。

Ⓖ カーソル、決定キー
メニューを選択、決定します。

Ⓗ トップメニューキー
外部機器のトップメニューを表示します。

Ⓗ メニューキー
外部機器のメニューを表示します。

Ⓘ 戻るキー
前のメニューに戻ります。

Ⓛ テレビ操作キー

TV 音量＋／－キー
テレビの音量を調節します。

TV 消音キー
テレビを消音します。

TV 入力切替キー
テレビの入力を切り替えます。

Ⓙ チャンネル▲ / ▼ キー
外部機器のチャンネルを切り替えます。

Ⓝ 数字キー
外部機器用の数字キーとして動作します。

Ⓟ 放送メディア切り替えキー
デジタル放送対応テレビやレコーダーで放送メディア（地上デジタル放送、地上アナログ放送、BS 放送、CS 放送）を選択します。

Ⓢ 外部機器操作キー
外部機器の再生や停止などを操作します。

ヒント

・ⒷⓅ（TV）キー、およびⓁテレビ操作キーは、選択している入力ソースに関わらず常にテレビを操作できます。

ご注意

・外部機器の種類により、正しく機能しない場合があります。このような場合は各機器に付属しているリモコンをご使用ください。
・HDMIコントロール機能を使用している場合、本機のリモコンでテレビを操作すると、本機の電源や音量などが動作する場合があります。また、本機とHDMIで接続したレコーダーの電源が動作することもあります。

リモコンコードを設定する

1 *Ⓠ コードセットキーを押しながら、リモコンコードを設定したい外部機器の Ⓓ 入力選択キーを押す。*

Ⓐ トランスミッションインジケーターが 2 回点滅します。

2 *Ⓠ コードセットキーをはなす。*

3 *Ⓝ 数字キーを押して、外部機器のリモコンコード(62 ページ)を入力する。*

Ⓝ 数字キーを押すたびに、Ⓐ トランスミッションインジケーターが 1 回点滅します。5 桁のリモコンコードが正しく入力されると、Ⓐ トランスミッションインジケーターが約 2 秒間点灯します。

ヒント

・「00010」と入力すれば、設定したリモコンコードを入力ソースごとに消去できます。

ご注意

・Ⓝ数字キー以外のキーを押すとⒶトランスミッションインジケーターが5回点滅し、リモコンコードの設定が中止されます。

Ⓐ Ⓑ Ⓓ Ⓖ Ⓗ Ⓘ Ⓙ Ⓛ Ⓝ Ⓟ Ⓠ Ⓢ

3 設定した外部機器を操作する。

外部機器が正しく機能すれば登録は完了です。正しく機能しない場合はリモコンコードが合致していない可能性があります。本機に接続している外部機器のリモコンコード(62 ページ)を確認後、再度設定してください。

ご注意

・手順1を操作した後や手順2の操作中に約30秒間操作しないと、Ⓐトランスミッションインジケーターが5回点滅し、リモコンコードの設定が中止されます。

リモコンコードの設定を初期化する

1 Ⓠ コードセットキーを押しながら、Ⓘ 設定キーを押す。

Ⓐ トランスミッションインジケーターが 2 回点滅します。

2 Ⓠ コードセットキーをはなす。

3 Ⓝ 数字キーを押して、「99999」と入力する。

Ⓝ 数字キーを押すたびに、Ⓐ トランスミッションインジケーターが 1 回点滅します。正しく入力されると、Ⓐ トランスミッションインジケーターが約 2 秒間点灯し、リモコンコードの設定が初期化されます。

ご注意

・誤った数字を入力するとⒶトランスミッションインジケーターが5回点滅し、リモコンコード設定の初期化が中止されます。

リモコンコード一覧

下表に記載のメーカー製品であっても、年式や機種により、全部または一部の機能を操作できない機器があります。その場合は、お使いの機器に付属しているリモコンをご使用ください。複数のリモコンコードが記載されている場合は、お使いの機器に一致するものが見つかるまで順番にお試しください。

メーカー名	リモコンコード				
テレビ（*BS／地上デジタル放送対応機種）					
アイワ	16901	17101	17701	18301	
赤井	00101	00301	02901	04601	06801
	08901	10501	14701	14801	15401
	15701	16201	16701		
バイ・デザイン	14301	14401	14501	14601	
カシオ	15701	16101	16201		
シチズン	00301	00901	01201	14701	15401
	16301	16701	16801	17801	17901
	18101	18201	18601		
大宇	00101	00301	00401	01201	01601
	02001	02401	02601	02701	04901
	05601	07901	08201	13101	14701
	14801	15401	15701	15901	16201
	16301	16501	17901		
デノン	01801				
エイゾー	04009*				
富士通	08701	10401	15401	15701	16201
富士通ゼネラル	15001				
フナイ	02501	02701	03701	14801	15401
	17201	17701	18201		
ゴールドスター	00301	00401	01701	02001	02601
	05001	14701	14801	15201	15401
	15501	15701	16201	16301	16501
	17701	17901	18901		
日立	00009*	00101	00301	01201	01501
	01701	01801	02201	02601	03001
	04501	06101	06901	07301	11701
	12101	14701	15401	15701	15801
	16101	16201	16301	17701	17901
	18601	18901			
ケンウッド	00301	15401	16301	17901	
LG	00301	00401	00901	01601	02601
	09001	15701	16201	16301	16501
	17701	17901	18901		
マランツ	00301	00401	00801	07001	14701
	15701	16201	16301	17901	
三菱	00301	00809*	01301	01601	01901
	02001	02601	02701	03101	03401
	06701	11201	11901	14701	14801
	15701	16201	16301	16501	17901
	19001				
NEC	00101	00301	00601	02001	02101
	02401	02601	05701	06501	13201
	14801	15701	15901	16201	16301
	16501	17901			
オリオン	00401	03101	04101	05801	06801
	14701	14801	15401	15701	16201
	16801				
パナソニック	00401	00601	00801	01209*	02201
	03401	08301	12401	14701	15701
	16201	16401			
フィリップス	00001	00301	00401	00601	00801
	01201	01601	02601	04901	07001
	08801	12601	15701	15801	15901
	16201	16301	17201	17301	17801
	18201				
パイオニア	01609*	01701	02201	02301	03801
	08601	09501	11301	14701	15701
	15801	16201	16301	17901	

メーカー名	リモコンコード				
テレビ（*BS／地上デジタル放送対応機種）					
サムスン	00101	00301	00401	00901	01101
	01201	02001	02601	03701	04701
	07001	07401	07801	08901	09801
	10501	10701	14701	14801	15201
	15401	15701	16201	16301	16501
	16601	16701	17901	18101	18901
	20301				
三洋	01401	02001	02701	02901	04301
	10201	14801	15301	15701	16201
	16301	18901			
シャープ	00301	01301	02009*	08301	15401
	16301	17901			
ソニー	00001	02409*	02809*	08301	11101
	11601	12701	12901	15701	16201
東芝	00901	02001	02101	03209*	06601
	07801	08301	10901	12101	12301
	13001	13201	16701	18101	18901
ビクター	00409*	00701	04801	05801	08401
	08701	14701	18901		
ヤマハ	00301	01801	08301	10001	11001
	13501	13601	13701	13801	14001
	14101	14201	16301	16501	17901
ヤマジ	03609				

DVD プレーヤー					
アイワ	05605	05705	07105		
赤井	07505				
Apex	07605	08705			
Apex Digital	02105	02605	03005	03505	03605
	03705	04105	05805		
大宇	03205	03305			
デノン	00005				
フナイ	07805	08405			
ゴールドスター	02905	07405			
日立	01105	01905			
ケンウッド	00005	00605			
LG	02905	07405			
マランツ	00705	07405			
三菱	00205				
オンキョー	00105				
パナソニック	00005	01605	04205		
フィリップス	00105	00705	01705	03905	07805
	08405				
パイオニア	00405	01005	01505	01605	
サムスン	01105	04505			
三洋	02005				
シャープ	01405				
ソニー	00505	04005			
ティアック	01005	02605			
東芝	00105	04605			
ビクター	00905	01305			
ヤマハ	00005	00705	00805	04305	04405

メーカー名	リモコンコード				
ブルーレイディスクプレーヤー					
デノン	01307				
LG	00907				
Loewe	00307				
マランツ	00707				
オンキョー	00207				
パナソニック	00807				
フィリップス	00607				
パイオニア	01007	01107			
サムスン	00507				
シャープ	01207				
ソニー	00407				
ヤマハ	00007	00107			
DVD ／ブルーレイディスクレコーダー (*BS ／地上デジタル放送対応機種)					
日立	01506	01606*	01706*	01806*	01906*
	02006*	02106*	02206*	02306*	02406*
三菱	04406*	04506*			
パナソニック	00006	00106	00206	02206*	02306*
	02406*	02506*	02606*	02706*	
パイオニア	00406	00506	04906*	05006*	05106*
シャープ	01206	01306	02806*	02906*	03006*
	03106*	03206*	03306*	03406*	03506*
	03606*	03706*			
ソニー	00906	01006	01106	04106*	04206*
	04306*	00008*	00108*	00208*	
東芝	00306	03806*	03906*	04006*	
ビクター	04606*	04706*	04806*	03306*	03406*
	03506*				
ビデオデッキ					
アイワ	00002	00402	02202	02602	02702
赤井	00602	02302	04902	05902	06602
大宇	00902	01602	02102	03402	04302
	06302				
富士通	00002	00902			
フナイ	00002	04702	05902	06302	
ゴールドスター	00402	01802	02902	04202	05402
	05702	05902			
日立	00002	00402	00602	00702	02002
	04702	06202			
ケンウッド	00602	01302	05402	05802	06002
	06102	06602			
LG	00402	00702	00902	02902	05902
マランツ	00302	01502	04602	05402	05802
	06002	06102	06402		
三菱	00602	00802	01302	01502	03502
	05802	06002	06202		
NEC	00302	00402	00602	01102	01302
	01602	05402	05802	06002	06102
	06602				
オリオン	01702	02602	02702	04402	05002
パナソニック	00302	01802	01902	03102	03702
	04502	04802	05102	05302	05602
	06402				
フィリップス	00302	01502	03202	03902	04002
	04602	06402			
パイオニア	00702	01302	01502	05802	06002
	06202	06702			
サムスン	00902	02002	02802	05502	06202
三洋	01002	01602	02002	05502	06102
シャープ	01102	03502	05902		
ソニー	00002	00102	00202	00302	03302
	04102	04702			
ティアック	00002	00602	02102	02202	03402
	04702	05902	06302	06602	
東芝	00602	00802	00902	01302	01502
	03602	06202			
ビクター	00602	00902	01302	05402	05802
	06002	06102	06602		
ヤマハ	00602	05402	05802	06002	06602

メーカー名	リモコンコード			
ケーブルテレビチューナー				
日立	04703			
パナソニック	00003	00203	00403	02703
フィリップス	01003	01103	03203	04303
パイオニア	00503	01603	01903	
ソニー	02103			
東芝	00003			

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
ⓒ電源キーを押しても電源が入らない／すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	19
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約 1 時間程度）、電源を入れなおしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	19
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUT キーやⓓ入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	30
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	30
	消音されている。	ⓚ消音キーまたはⓚ音量＋ / －キーを押して消音を解除してください。	31
	サンプリング周波数が 192kHz の PCM や MPEG2 など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—
	「サポート音声」を「それ以外」に設定している。	「（モデル名）」に設定してください。	55
有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—
特定のチャンネル音声が出ない／はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	52
	ビームが正しく設定されていない。	ビームを調節してください。	47
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	33
	音声出力方法により、出力されないチャンネルがあります。	音声出力方法を変更してください。	35

症状	原因	対策	参照ページ
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	リスニングルームが特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置がリスニングルームの左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	15
	ビーム経路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—
デジタル音声信号を再生できない（DDDIGITAL インジケーター、または AAC インジケーターが点灯しない）	本機と外部機器がデジタル、または HDMI で接続されていない。	接続を確認してください。	19
	再生機器やテレビのデジタル音声出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	再生機器やテレビのビットストリーム出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	テレビの AAC 出力設定が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
サブウーファーを接続していないときに、本来の音以外の雑音が出る	強い低音成分が連続して含まれるソースを再生したため、保護回路が働き雑音が出た。	音量を下げてお楽しみください。	30
		「サブウーファー設定」で「バス出力」を「サブウーファー」に変更してください。その際「クロスオーバー」を「100Hz」または「120Hz」に設定してください。低音成分が抑えられます。	50
		サブウーファーを接続し、「サブウーファー設定」を行ってください。	50
サブウーファーから音声が出ない	「サブウーファー設定」で「バス出力」を「フロントまたは自動」に設定している。	「サブウーファー」に設定してください。	50
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		—
ワイヤレスで接続したサブウーファーから音声が出ない	SWK-W10 のグループ ID が本機の ID と一致していない。	SWK-W10 のグループ ID と本機のグループ ID を確認してください。	55
	「ワイヤレス機器アクセス」が「いいえ」に設定されている。	「はい」に設定してください。	55
低音の再生不良	「サブウーファー設定」の「クロスオーバー」が正しく設定されていない。	「クロスオーバー」を正しく設定してください。	50
テレビ画面にメニューやソースの映像が表示されない	HDMI ケーブルまたは映像用ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18
	テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	—
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	55
	テレビのコントロール機能設定が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「AUTO LIP SYNC」を「オン」に設定しても効果が感じられない	テレビがリップシンクの自動補正機能に対応していない。	「AUTO LIP SYNC」を「オフ」に設定し、遅延時間を手動で設定してください。	51

症状	原因	対策	参照ページ
キー操作時に「Not Available」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。		—

FM 放送の受信

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聴きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	21
		アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		モノラルで受信してください。	44
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		手動選局、または周波数を直接指定して選局してください。	38
プリセット放送局が選局できない	本機の電源がコンセントから長期間取り外されていた。	再度プリセットしてください。	39

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30°以内の範囲で操作してください。	22
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	22
外部機器をリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	Ⓓ 入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	30
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	60
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	各機器に付属しているリモコンをご使用ください。	—

iPod ／ iPhone

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	他の機器に接続されている。	グループセレクトを変更して、他のグループを選択してください。	—
	グループ ID が合っていないため接続していない。	グループ ID を合わせてください。	55
	「ワイヤレス機器アクセス」が「いいえ」に設定されている。	「はい」に設定してください。	55
	距離が離れすぎている。	本機と YIT-W10 を近づけてください。	—
	周囲に 2.4GHz 帯の電波を出すもの（電子レンジ等）がある。	それらの機器から遠ざけて設置してください。もしこれらの機器が IEEE802.11n 対応の場合、本機に影響が出ないようチャンネル設定を変更してください。	—
	iPhone または iPod のファームウェアが最新バージョンになっていない。	アップル社のウェブサイトから最新の iTunes ソフトウェアをダウンロードし、iPhone または iPod のファームウェアを最新バージョンにアップグレードしてください。	—
	YIT-W10 からの電波が金属や人体で遮られている。	電波が遮られないように、持ち方や持つ位置、置き方や置く位置を変えてください。	—
	iPhone または iPod のバッテリー残量が少ない。	iPhone または iPod を充電してください。	—
	iPhone または iPod と本機が接続中です。	接続が完了するまでお待ちください。	—
	音量が大きすぎて保護回路が働いた。	音量を小さくしてください。	30
iPhone または iPod の音量を調節しても、本機の出力音量が調節できない	本機が対応していない iPhone または iPod が接続されている、または YIT-W10 にしっかり接続されていない。	本機が対応している iPhone または iPod を使用するか、接続を確認してください。	—
iPhone または iPod を接続していないのに、突然音声が出た	他の機器に接続されている。	グループ ID を変更して、他のグループを選択してください。	55
iPhone または iPod の電源に本機の電源が連動しない	「iPod パワー連動」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	55

技術 / 用語解説

5.1 チャンネル

もともと映画館で臨場感のある音響効果を再現するために開発されたサラウンド・システムです。前方に 3ch（左、右のステレオ 2ch ＋セリフ用センター 1ch）、後方に 2ch（サラウンド効果）、さらに超低音を出すための LFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）と呼ばれるチャンネルが用意されています。LFE は低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

デジタル圧縮音声フォーマットの 1 つです。主に日本の BS/ 地上デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録・伝送できます。圧縮動画規格である MPEG-2 の中で策定されています。

DTS

DTS 社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVD などに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で 5.1ch サウンドが再生できるといわれています。

DTS 96 ／ 24

DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24bit をあらわしています。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1ch で楽しめます。

DTS-HD ハイレゾルーションオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz ／ 24bit で最大 7.1ch のディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

DTS-HD マスターオーディオ

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz ／ 24bit で最大 7.1ch のディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。

DTS Neo : 6

DTS 社が開発した、2ch ソースを 6ch 化してサラウンド再生する技術です。再生するソースに合わせて、映画用の Neo : 6 Cinema モードと音楽用の Neo : 6 Music モードが用意されています。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP : High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ／オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。

LFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）

ドルビーデジタル、DTS などのデジタル・サラウンド･システムでは、通常の 5ch（フル帯域）以外に、低域の効果音のみを出力する LFE チャンネルが用意されています。20Hz ～ 120Hz の帯域の重低音を補助的に加えることで、迫力やリアル感が加わります。LFE は低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

MPEG

ISO（工業の標準化を図る国際機関）と IEC（電気･通信などの標準化を図る国際機関）が共同で標準化した「動画」および「音声」にかかわるデジタル圧縮規格の名称です。
MPEG には、MPEG1、MPEG2、MPEG4 の 3 つの規格があります。MPEG1 の画質は VHS ビデオ並みで、ビデオ CD などで利用されています。MPEG2 の画質は S-VHS ビデオ並みで、DVD ビデオなどで利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCM は非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化（コード化）します。MP3 形式や ATRAC 形式のような圧縮処理を用いないことから､リニア PCM とも呼ばれています。CD や DVD オーディオの録音方式などに採用されています。

x.v.Color

HDMI1.3 がサポートしている映像技術です。色空間技術の一つで､sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

音場

空間が持つ固有の音の響きのことです。音場を形成する要素には、音源から直接耳に届く直接音、音の明瞭度や音量を増大させる初期反射音、美しい余韻や艶を与える後部残響音の 3 要素があります。

シネマ DSP

世界中の著名なコンサートホールや劇場などの音の響きを実際に測って作成したデータと各種サラウンドデコーダーをかけ合わせ、ヤマハ独自の技術で生み出された音場プログラムの総称です。映画館や劇場と環境が異なる一般家庭でも、映画や音楽がより臨場感をもって楽しめるように設計されています。

ドルビー TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz ／ 24bit 時には最大 8ch のディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット（音声圧縮技術）で、DVD の標準音声形式のひとつとなっています。フォーマットとしては 1ch から 5.1ch まで用意されていますが、一般的には前方 3ch、後方 2ch、LFE（低域効果音）0.1ch の 5.1ch でサラウンドを構成します。各チャンネルが独立した信号で録音されているため、非常に明瞭な音声で再生することができます。

ドルビーデジタルサラウンド EX

5.1ch ソースにサラウンドバックチャンネルを加えて、6.1ch で再生する技術です。ドルビーデジタルサラウンド EX で録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生することができます。特に動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音が楽しめます。

ドルビーデジタルプラス

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、最大 7.1ch のディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps で収録可能です。

ドルビープロロジック

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、ステレオ信号をサラウンド再生するためのアナログ技術です。ドルビーサラウンドエンコードされている 2ch ソースを、前方 3ch と後方 1ch（モノラル）の 4ch でサラウンド再生します。

ドルビープロロジックⅡ

ドルビープロロジックの上位規格で、ステレオ信号を 5.1ch で再生するための技術です。後方のサラウンド ch はステレオ化されているのと同時に、周波数特性がフル帯域化されています。再生するソースに合わせて、映画用の Movie モードと音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードの 3 つが用意されています。

ドルビープロロジックⅡx

ドルビープロロジックⅡの上位規格で、ステレオ信号やマルチチャンネル信号を 7.1ch で再生するための技術です。ドルビープロロジックⅡの 5.1ch に対し、サラウンドバックの 2ch が追加されています。再生するソースに合わせて、映画用の Movie モード（2ch 信号入力時のみ）と音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードの 3 つが用意されています。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力
ウーファー............................... 20W ／ ch
（4Ω、100Hz、10% THD）
小口径スピーカー..................... 2 W ／ ch
（4Ω、1kHz、10% THD）

スピーカー部

スピーカー形式
.... 2 ウェイ密閉防磁型
スピーカーユニット
小口径スピーカー
.... 4cm コーン防磁型× 40 個
ウーファー
.... 11cm コーン非防磁型× 2 個
ツィーター（YSP-5100 のみ）
.... 2.5cm バランスドーム× 2 個
再生周波数帯域（− 10dB、ステレオモード）
YSP-5100 .... 70Hz 〜 20kHz
YSP-4100 .... 80Hz 〜 20kHz

入力端子

オーディオ　AUX 1、テレビ（アナログ）
.... 2 組（アナログ音声）
オーディオ　AUX 1、テレビ
（光デジタル）（FS ＝ 32kHz、44.1kHz、48kHz、64kHz、88.2kHz、96kHz）
.... 2 個（デジタル音声）
オーディオ　AUX 2（同軸デジタル）（FS ＝ 32kHz、44.1kHz、48kHz、64kHz、88.2kHz、96kHz）
.... 1 個（デジタル音声）
ビデオ AUX1（NTSC）
.... 1 個（コンポジット映像）
ビデオ AUX2
.... 1 組（コンポーネント映像）
HDMI　入力 1 〜入力 4
.... 4 個（デジタル音声・映像）

出力端子

サブウーファー .... 1 個
ビデオ（NTSC、コンポジット入力／メニュー画面）........ 1 個（コンポジット映像）
HDMI .... 1 個

マイク入力端子

INTELLIBEAM MIC
.... 1 個（マイク入力）

システム接続端子

システム接続
.... 1 個（サブウーファー電源連動用）
RS-232C .... 1 個（工場サービス用）
IR IN....................... 1 個（工場サービス用）
IR-OUT .... 1 個（工場サービス用）

FMチューナー部

受信周波数範囲
.... 76.0MHz 〜 90.0MHz

ワイヤレス接続

周波数帯域 2.4GHz

総合

電源電圧..............AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力...55W
待機時消費電力
HDMI コントロール　オフ／ワイヤレス電源　オフ............................... 0.5W 以下
HDMI コントロール　オン／ AirWired オン（初期設定）..................... 3.5W 以下
寸法（幅×高さ×奥行き）
YSP-5100
最大寸法 ....1200 × 212 × 90mm
スタンド取付時
................1200 × 214 × 110.7mm
YSP-4100
最大寸法 ....1030 × 212 × 90mm
スタンド取付時
................1030 × 214 × 110.7mm
質量
YSP-5100 .... 11kg
YSP-4100 .... 10kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機の無線方式について

2.4XX4		
	「2.4」	2.4 GHz 帯を使用する無線設備
	「XX」	変調方式はその他の方式
	「4」	想定干渉距離が40 m 以内
	▬▬▬	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部:限度値−高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計·製造した製品です。

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明及び電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

索引

番号

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

L

M

N

P

R

S

T

U

V

X

あ

い

え

お

せ

そ

た

ち

て

と

に

ね

の

は

ひ

ふ

ほ

ま

み

め

も

ゆ

ら

り

れ

わ

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

本機の設置や設定、操作に関するお問い合わせ

■ ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10：00～18：00　土曜日 10：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受付：月～金曜日9：00～18：00　土曜日9：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理お持ち込み窓口
受付：月～金曜日9：00～17：45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 FAX (011)512-6109
首都圏	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F FAX (03)5762-2125
浜松	〒435-0016 浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 FAX (053)462-9244
名古屋	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F FAX (052)652-0043
大阪	〒564-0052 吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F FAX (06)6330-5535
九州	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4 FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

YAMAHA

J

YSP-5100 / YSP-4100

簡易接続・操作ガイド

日本語

外部機器を接続して本機で再生を楽しむまでの手順を説明します。詳しい内容については取扱説明書をご覧ください。

「付属品を確認する」（取扱説明書 11 ページ）で、同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。外部機器の機能や設定、操作については、ご使用の外部機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

YSP-5100/YSP-4100 を設置する

設置場所を決定します

本機は下図のように音声をビーム化して出力します（矢印は 5 チャンネル出力時のビーム化した音声と各ビームの経路を表しています）。効果的なサラウンド感を得るため、ビームの経路と家具などの障害物が重ならない場所に本機を設置してください。

転倒防止スタンドを取り付けます

下図を参考に転倒防止用スタンド（付属品）を取り付けてください。スタンドの左右と取り付け穴の位置にご注意ください。別売りの YSP 専用のラックや壁掛け金具、テーブルトップスタンドなどに本機を設置する場合、転倒防止スタンドの取り付けは不要です。

ラックなどに設置します

下図を参考に設置してください。本機やラック、床などを傷つけないようご注意ください。設置の前に、ケーブルを本機に接続したほうがよい場合があります。その場合は、先に接続を行ってください（右記参照）。

YSP-5100/YSP-4100 に外部機器を接続する

テレビとブルーレイディスクレコーダーを本機に接続します

下記の接続例を参考にテレビとブルーレイディスクレコーダーを本機に接続してください。本機の背面図では、見やすくするために端子と端子名を合わせて表示しています。実際とは異なりますのでご注意ください。電源プラグは最後に接続してください。

接続例 A

本機の性能を最大限に発揮できる接続方法です。ブルーレイディスクレコーダーから出力される映像・音声信号を HDMI ケーブルを使って伝送することにより、ブルーレイディスクをより高品質な映像や音声でお楽しみいただけます。また、テレビからの音声信号を光ファイバーケーブルで本機に入力することにより、テレビのマルチチャンネルデジタル音声をお楽しみいただけます。

接続ケーブルは以下の順番で接続してください。

付属	別売
① 光ファイバーケーブル（テレビのデジタル音声を本機で再生します） ④ 電源コード	② HDMI ケーブル（本機のメニュー画面とブルーレイディスクのデジタル映像をテレビに映します） ③ HDMI ケーブル（ブルーレイディスクのデジタル映像・音声を本機に入力します）

ヒント

HDMI コントロール機能に対応したテレビ（一部を除く）と本機を HDMI で接続すれば、テレビのリモコンで本機の機能（電源、音量、音声出力切替など）を操作できます。詳しくは、「HDMI コントロール機能を使用する」をご覧ください（取扱説明書 42 ページ）。接続可能な機器に関する最新の情報は下記の弊社ホームページをご覧ください。
http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

ご注意

テレビや DVD プレーヤー／レコーダーのデジタル音声出力設定がオンになっていることをご確認ください。

追加機器（チューナーやゲーム機など）の接続例やサブウーファーのワイヤレス接続、FM 簡易アンテナの接続方法です。電源プラグは最後に接続してください。

接続例 a

本機の性能を最大限に発揮できる接続方法です。本機の空いている HDMI 端子に外部機器を接続してください。

接続例 b

AUX1 端子（光デジタル端子 / アナログ端子）と VIDEO 端子を使った接続方法です。

サブウーファーのワイヤレス接続

別売りのワイヤレスサブウーファーキット（SWK-W10）を使った接続方法です。SWK-W10 の設定やサブウーファーとの接続について詳しくは、SWK-W10 に付属の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 正常に通信するには、本機と SWK-W10 のグループ ID を一致させる必要があります。グループ ID の設定は、それぞれの機器の取扱説明書をご参照ください。

FM 簡易アンテナの接続

付属の FM 簡易アンテナを接続します。

接続例 c

AUX2 端子（同軸デジタル端子）とコンポーネントビデオ端子を使った接続方法です。

接続例 B

本機に付属のケーブルを使った接続方法です。ブルーレイディスクのマルチチャンネルデジタル音声およびテレビのマルチチャンネルデジタル音声／アナログ音声をお楽しみいただけます。テレビとブルーレイディスクレコーダーの映像接続は、ブルーレイディスクレコーダーに付属の映像ケーブルなどで接続してください。

接続ケーブルは以下の順番で接続してください。

付属
① ビデオ用ピンケーブル（本機のメニュー画面をテレビに映します）
② ステレオピンケーブル（テレビのアナログ音声を本機で再生します）
③ 光ファイバーケーブル（テレビのデジタル音声を本機で再生します）
④ 光ファイバーケーブル（ブルーレイディスクのデジタル音声を本機で再生します）
⑤ 電源コード

ご注意

テレビや DVD プレーヤー／レコーダーのデジタル音声出力設定がオンになっていることをご確認ください。

リモコンを準備する

リモコンに乾電池を入れます

極性（＋／－）に注意して乾電池を入れてください。

リモコンの操作範囲

裏面へつづく

Printed in Malaysia WT54690 [Ja]

表面からのつづき

④ YSP-5100/YSP-4100 を自動設定する（インテリビーム）

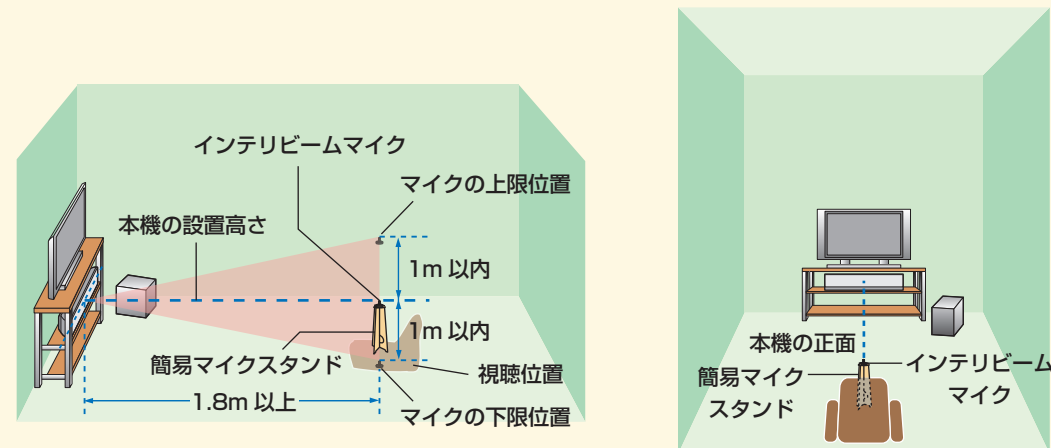
本機を自動設定し、最適な視聴空間をつくります。

付属のインテリビームマイクを使用してリスニングルームの環境を測定し、各チャンネルの設定を自動的に調節します。
測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様が部屋にいる場合や部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。

1 インテリビームマイクを本機の INTELLIBEAM MIC 端子に接続する

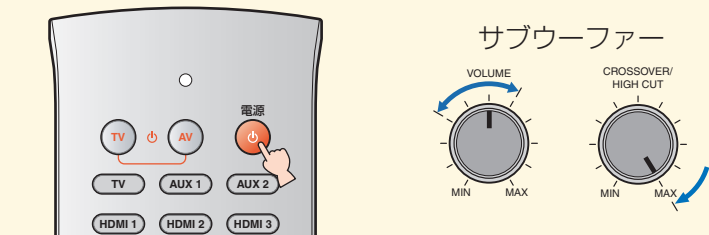
自動設定時に簡易マイクスタンドを使用すると便利です。下図のように組み立て、インテリビームマイクを上に置いて使用します。
インテリビームマイクは傾かないよう、水平に置いてください。

2 インテリビームマイクを実際に視聴する位置に設置します

簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

インテリビームマイクは本機から 1.8m 以上離し、本機の正面に設置してください。
また、本機から上下 1m 以内の高さに設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので障害物ではありません。

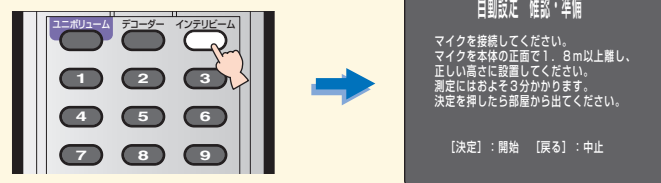
3 リモコンの電源キーを押す

本機の電源がオンになります。
サブウーファーを接続している場合は、電源を入れて、音量を約半分（下図左の位置）に設定してください。クロスオーバー周波数の調節機能がある場合は、クロスオーバー周波数を最大（下図右の位置）に設定してください。

サブウーファー

4 テレビの電源を入れ、映像入力切替を操作して本機の映像に切り替える

表面の接続例 A のように、本機とテレビを HDMI で接続した場合は、テレビの入力を「HDMI」に切り替えます。接続例 B のように、本機をテレビの映像入力 1 に接続した場合は、「1」に切り替えます。

5 インテリビームキーを 2 秒以上押す

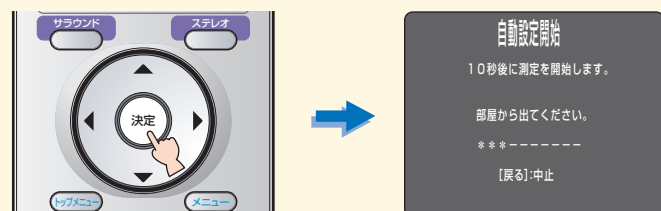
インテリビームキーはリモコンスライドカバーの内側にあります。

6 部屋の環境ができるだけ静かに保たれていることを確認する

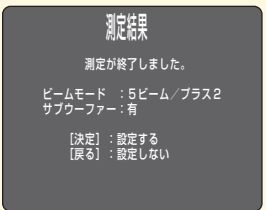
正確な測定・設定のため、エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

7 部屋の外に出る準備をする

部屋の中にいると、最適な設定が行われない場合があります。手順 8 で決定キーを押してから 10 秒以内に部屋の外に出られるように準備をしてください。

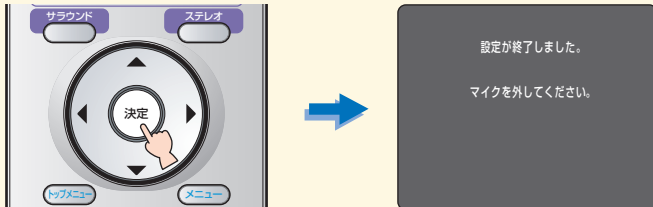
ヒント
- 部屋の外に出るときは、本簡易接続・操作ガイドも一緒にお持ちください。
- 測定中は部屋の外でお待ちください。
- 測定開始から終了まで約 3 分かかります。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、リモコンの戻るキーを押してください。

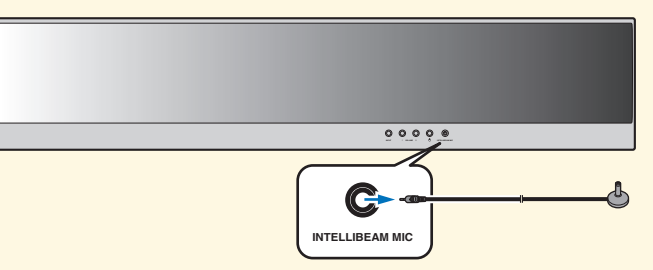
8 決定キーを押して測定を開始し、10 秒以内に部屋の外に出る

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力され、測定結果画面が表示されます。

「環境チェック・・・[NG]」と表示された場合は、「取扱説明書」26 ページを参照し、再度設定してください。

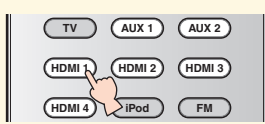
ヒント
- 本機の設置位置やサブウーファーの有無などにより、測定結果画面は異なります。
- エラー音（ブザー音）が出力され、画面にエラーメッセージが表示された場合は、「取扱説明書」27 ページをご覧ください。

9 決定キーを押す

下の画面が表示され、2 秒後にメニューが消えます。

10 インテリビームマイクを外す

自動設定完了です。マイクは大切に保管してください。
測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。

⑤ デジタル音声信号の入力を確認する

ブルーレイディスクレコーダーと本機をデジタル音声端子、または HDMI 端子を使用して接続している場合、デジタル音声信号が本機に正しく入力されているかを付属のサラウンド確認用 DVD で確認できます。

1 HDMI1 ～ 4 または AUX1 ／ 2 キーを押してブルーレイディスクプレーヤーを入力選択し、サラウンド確認用 DVD を再生する

2 フロントパネルディスプレイに DD DIGITAL インジケーターが点灯していることを確認する

ヒント
- インジケーターが点灯しない場合は、レコーダー側のデジタル音声出力設定をご確認ください。詳しくは、「サラウンド確認用 DVD 説明書」をご覧ください。

再生の基本操作

音声を再生する

iPod ／ iPhone を再生するには、別売りの iPod 用ワイヤレストランスミッター（YIT-W10）が必要です。

ブルーレイディスクを再生する

1 テレビの映像入力をブルーレイディスクの映像に切り替える

2 1）ブルーレイディスクレコーダーの接続に合わせて、HDMI1 ～ 4 または AUX1 ／ 2 キーを押す

ブルーレイディスクレコーダーを入力選択します。表面の接続例 A のように、ブルーレイディスクレコーダーを本機の HDMI 入力 1 に接続した場合は、HDMI1 キーを押します。

2）ブルーレイディスクを再生する

テレビを視聴する

1 見たいデジタル放送番組を選ぶ

2 TV キーを押す

テレビを入力選択します。

ヒント
- テレビと本機をデジタル音声端子を使って接続している場合、本機にデジタル放送のデジタル音声信号が正しく入力されているかを確認できます。信号が正しく入力されている場合、フロントパネルディスプレイの AAC インジケーターが点灯します。インジケーターが点灯しない場合は、テレビ側の設定をご確認ください。
- リモコンスライドカバー内側の D 音声多重キーを繰り返し押すと、BS ／地上デジタル放送の AAC 信号入力時に再生する音声を選択できます。
選択項目：MAIN（主音声）、SUB（副音声）、MAIN+SUB（主音声＋副音声）

3 音量＋ / －キーを押して、音量を調節する

テレビのスピーカーから音声が出ている場合は、テレビを消音してください。

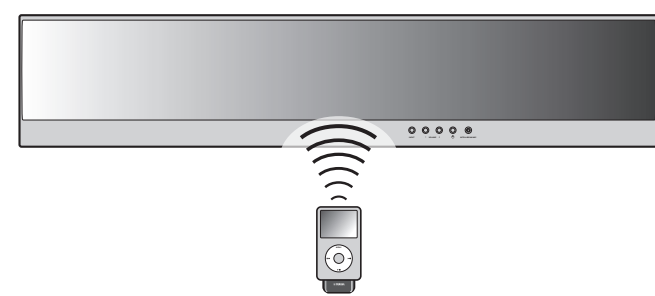
4 サラウンドキーを押してからシネマ DSP キーを押して、シネマ DSP 音場プログラムを切り替える

シネマ DSP キーを繰り返し押すと、プログラムが切り替わります。シネマ DSP をオフにするには、切キーを押します。音場プログラムについて詳しくは、「シネマ DSP を楽しむ」（「取扱説明書」33 ページ）をご覧ください。

iPod ／ iPhone を再生する

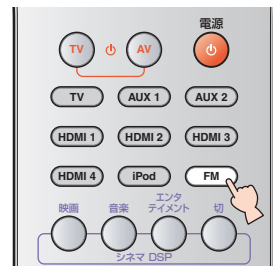
1 iPod ／ iPhone と iPod 用ワイヤレストランスミッター（YIT-W10）を準備する

iPod ／ iPhone と YIT-W10 の接続については、YIT-W10 に付属の取扱説明書をご覧ください。

2 iPod ／ iPhone を再生する

ヒント
- 正常に通信するには、本機と YIT-W10 のグループ ID を一致させる必要があります。グループ ID の設定は、それぞれの機器の取扱説明書をご参照ください。

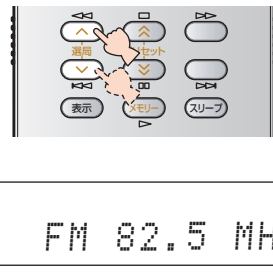
FM 放送を聴く

1 FM キーを押す

FM を入力選択します。

FM 76.0 MHz

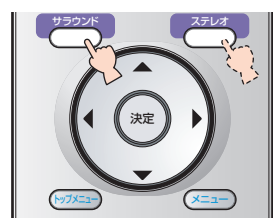
2 選局∧／∨キーを押す

周波数が切り替わります。

FM 82.5 MHz

本機の音声機能を使用する

サラウンド／ステレオを切り替える

サラウンドまたはステレオキーを押す

サラウンドではリアルな臨場感を、ステレオでは高品質な音声を楽しめます。

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

ユニボリュームキーを押す

ユニボリュームをオンにすると、テレビ視聴時の音量の急激な変化（番組から CM へ切り替わったときなど）をおさえて音声が聞きやすくなります。ユニボリュームキーはリモコンスライドカバーの内側にあります。